

仙台市文化財調査報告書第367集

下ノ内浦遺跡

第7次発掘調査報告書

2010年3月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が遺っております。当教育委員会といたしましても、先人の貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら、次の世代に継承していくよう努めているところであります。

下ノ内浦遺跡はJR長町駅の南西約1.5km、仙台市体育館の東側に位置しており、昭和58年の高速鉄道南北線関係遺跡の発掘調査から平成13年のマンション建築工事に伴う発掘調査まで、6次にわたる調査が実施されています。調査の結果、縄文時代から近世までの遺構・遺物が発見され、縄文時代以降の継続的な生活痕跡が残されている遺跡であることが明らかになっています。特に昭和58～59年に行われた調査では、縄文時代早期の仙台市内最古の竪穴住居跡や、縄文時代後期の配石墓群等が発見されています。

今回の調査は、マンション建築工事に伴うもので、本報告書は発掘調査の成果についてまとめたものです。調査では、古代の竪穴住居跡や土坑、溝跡と縄文時代および弥生時代の遺物包含層が検出され、縄文土器や弥生土器、土師器、石器等が出土しています。

当教育委員会におきましては、発掘調査状況の公開・活用を進めるため、調査の概要を紹介する広報板等への掲示や遺跡見学会の開催など、今後もより多くの市民の皆様に興味をもっていただけるような活動を行っていきたいと考えております。今回の調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本報告書の刊行に際しまして、ご指導、ご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げ、序といたします。

平成22年3月

仙台市教育委員会

教育長 荒井 崇

例　言

1. 本書は共同住宅建築工事に伴い実施された、下ノ内浦遺跡第7次発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社四門仙台支店が行なった。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 荒井格・熊谷敏哉の監理のもとに、株式会社四門仙台支店 三澤壯太・百瀬貴子が担当した。
4. 本書は、第1章を熊谷、第2～4章、第5章第1・2・4～6節、第6章1・2節を三澤、第5章第3節、第6章3～7節を百瀬が執筆した。
5. 調査及び報告書作成にあたり、下記のデジタル機器・ソフトウェアを使用した。

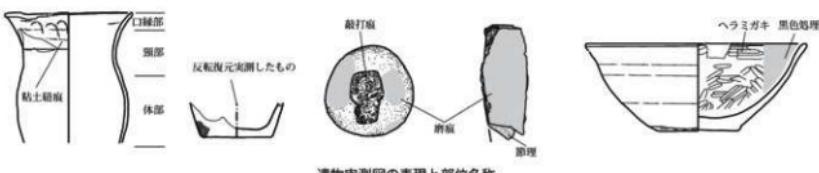
測量・遺構計測	WindNeo	(アイサンテクノロジー株式会社)
遺構くん		(株式会社 CUBIC)
遺構図・遺物実測図編集	Photoshop・Illustrator	(Adobesystems)
報告書編集・作成	InDesign	(Adobesystems)
	Word・Excel	(Microsoft)
6. 石器の石材鑑定は、東北大学名誉教授 蟹澤聰史氏にお願いした。
7. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、野村不動産株式会社仙台支店・中外機工株式会社・株式会社マルヨシ興業よりさまざまな御協力を賜った。記して謝意を表す次第である。
8. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　例

1. 本書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省農林水産技術會議事務局2001年版）に準拠している。
2. 本書中の第1章第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図「仙台」を使用した。
3. 図中のグリッド値は、日本測地系座標を使用し X=-198119.0 m、Y=3772.0 mを起点(A1)、X=-198148.0 m、Y=3791.0 mを終点(T30)として1m間隔で設定し、東西をアルファベット、南北を数字で表記した。
4. 本文・図版等で使用した方位は、すべて座標北を基準としている。
5. 標高値は、海拔高度(T.P.)を示す。
6. 遺構図は、縮尺1/60を基本とした。その他、各図内にスケールを示した。
7. 基本層の表記は盛土層を除きローマ数字を用いた。
8. 遺構名の略号は、SI：竪穴住居跡・竪穴遺構、SD：溝跡、SK：土坑、SR：自然流路、P：ピットを使用した。なお遺構図内で略号のない遺構番号はピットをあらわす。
9. 調査区・遺構の面積は、測量用ソフトを使用して算出した。
10. 遺構の主軸方位は、長軸および長軸と想定される方位を主軸方位とした。
11. 竪穴住居跡の断面図では、床面及びカマド使用面は太線とし、掘り方は細線とした。
12. 遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。

A : 繩文土器	B : 弓生土器	C : 土師器(非ロクロ調整)	D : 土師器(ロクロ調整)	K : 石器・石製品
----------	----------	-----------------	----------------	------------
13. 遺構平面図・断面図では、遺物を以下の略号を用いて表した。

P : 土器	S : 石
--------	-------
14. 遺物実測図は、原則として土器1/3、石器1/1、2/3、1/2、1/3で表示した。その他、各図内にスケールを示した。
15. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で表した。中心線が一点鎖線のものは、転回して図上復元したものである。内面黒色処理を施したものについては、一部にトーンをかけた。



目 次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項	1
第2章 遺跡の立地と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第3章 調査の方法と経過	2
第1節 調査区の設定	3
第2節 調査の方法	3
第3節 調査の経過	3
第4章 基本層序	4
第5章 検出遺構と出土遺物	4
第1節 III a 層上面遺構と出土遺物	4
第2節 III b 層上面遺構	15
第3節 III層出土遺物	15
第4節 IV層上面遺構と出土遺物	26
第5節 V層上面遺構と出土遺物	28
第6節 VI層上面遺構	29
第6章 まとめ	29

挿図目次

第1図 下ノ内浦遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第2図 下ノ内浦遺跡第7次調査区位置図	3
第3図 調査区北壁・東壁土層断面図	5
第4図 III a 層上面検出遺構 遺構配置図	6
第5図 SI1 穫穴遺構 平面図・土層断面図	7
第6図 SI2 穫穴住居跡 平面図・土層断面図	7
第7図 SI3 穫穴住居跡 平面図・土層断面図・出土遺物	9
第8図 III a 層上面検出溝跡・土坑 土層断面図	10
第9図 III a 層上面検出溝跡 平面図・土層断面図・出土遺物	10
第10図 調査区北側部分III a 層上面検出溝跡 平面図・土層断面図	11
第11図 SD26 溝跡出土遺物	12
第12図 III a 層上面検出土坑 平面図・土層断面図	13
第13図 SK13・19 土坑出土遺物	14
第14図 III b 層上面検出遺構 遺構配置図	15
第15図 III b 層上面検出土坑 平面図・土層断面図	15
第16図 弥生土器①	17
第17図 弥生土器②	18

第 18 図 弥生土器③	19
第 19 図 弥生土器④	21
第 20 図 弥生土器⑤	22
第 21 図 石 器 ①	23
第 22 図 石 器 ②	24
第 23 図 石 器 ③	25
第 24 図 SD41 溝跡 土層断面図・出土遺物	26
第 25 図 IV・VI層上面遺構 遺構配置図	27
第 26 図 SK17・18 土坑 平面図・土層断面図	28
第 27 図 V層出土遺物	28

表 目 次

第 1 表 III a 層上面遺構 SI1 竪穴遺構, SI2・3 竪穴住居跡 計測表	30
第 2 表 III a 層上面遺構 SD1 ~ 40 溝跡 計測表	30
第 3 表 III a 層上面遺構 SK1 ~ 15・19 ~ 21 土坑 計測表	31
第 4 表 III b 層上面遺構 SK16・22 土坑 計測表	31
第 5 表 IV層上面遺構 SD41 溝跡 計測表	31
第 6 表 IV層上面遺構 SK17・18 土坑 計測表	31
第 7 表 出土土器・土製品数量表	31
第 8 表 層位・遺構別出土石器数量表	32
第 9 表 石材別出土石器数量表	32

図 版 目 次

写真図版 1 III a 層上面遺構	35
写真図版 2 III a 層上面遺構・III b 層上面遺構	36
写真図版 3 III a ~ d・IV ~ VI層上面遺構	37
写真図版 4 缶文土器・弥生土器（第 I 類・第 II 類）	38
写真図版 5 弥生土器	39
写真図版 6 石器・土師器	40

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

平成21年5月11日付で、野村不動産株式会社仙台支店長横山英大氏より、仙台市太白区長町南四丁目29-3, 29-6, 29-7について、共同住宅建築工事に係る「埋蔵文化財発掘の取り扱いについて（協議）」が提出された。

当該地は、下ノ内浦遺跡の中央やや北東寄りに位置している。平成21年6月1日～11日に4箇所のトレーナーを設定し、確認調査を実施した。その結果、溝跡4条、土坑1基、ピット50が検出された。さらに縄文土器片や弥生土器片が出土し、縄文時代および弥生時代の遺物包含層の存在も確認された。このことから、共同住宅建築工事により地下遺構が損なわれる可能性があると判断し、工事に先立つて本発掘調査が必要である旨の回答を通知した。その後、幾度かの協議を経て、記録保存を図るために発掘調査を実施することになった。

第2節 調査要項

遺 跡 名 称	下ノ内浦遺跡（宮城県遺跡地名登録番号01368・仙台市文化財登録C-300）	
所 在 地	宮城県仙台市太白区長町南四丁目29-3, 29-6, 29-7	
調 査 原 因	共同住宅建築工事に伴う埋蔵文化財の事前調査	
調 査 主 体	仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）	
調 査 担 当	調査係 主査	荒井 格
	調査係文化財教諭	熊谷 敏哉
	主任調査員	三澤 壮太（株式会社四門 仙台支店）
	調査補助員	百瀬 貴子（株式会社四門 仙台支店）
	計測員	小山 一美・島田 豆・耕田 宜弘（株式会社四門 仙台支店）
調 査 期 間	平成21年8月19日～平成21年10月30日	
調 査 面 積	399m ²	

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

下ノ内浦遺跡は仙台市太白区長町南に所在し、JR長町駅の南西約1.5km、仙台市体育館の東約150mに位置する（第1図）。遺跡の南方約1kmに名取川が流れおり、東方約3.2kmには名取川と広瀬川の合流点がある。遺跡周辺は名取川と広瀬川にはさまれた「郡山低地」と呼ばれる地域にあたり、太白山北麓を源とする笊川が名取川寄りを曲流している。郡山低地の基盤は名取川と広瀬川の供給した礫層であるが、その後の堆積状況は場所により異なっている。

本遺跡は、名取川と笊川の洪水堆積物によって形成された自然堤防上に立地する。遺跡は東西約400m、南北約120mに広がっており、面積は約3haと推定される。現在の標高は11～12mである。

第2節 歴史的環境

本遺跡では、これまで6次の調査が実施されており、縄文時代から近世までの遺構、遺物が検出されている（第2図）。縄文時代では、市内で最も古い早期前半の竪穴住居跡と、後期の配石遺構・墓壙等で構成される墓域等が確認されている。弥生時代では後期の遺物包含層と土壤墓が検出され、墓域であったことが判明している。また弥生時代後期から古墳時代前半の水田跡や、古墳時代から平安時代初め頃の畑跡等の食糧生産に関わる遺構も確認されている。奈良・平安時代では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡が発見されており、居住域であったことが明らかになっている。



番号	遺跡名	立地	時代	番号	遺跡名	立地	時代
1	下ノ内浦遺跡	自然堤防	縄文～平安	11	元袋遺跡	自然堤防	奈良・平安
2	山口遺跡	自然堤防・後背湿地	縄文・弥生・奈良・平安	12	袋東遺跡	自然堤防	古墳・平安
3	富沢遺跡	後背湿地	旧石器・縄文～近世	13	三神峯遺跡	段丘	縄文
4	下ノ内遺跡	自然堤防	縄文～平安	14	上野遺跡	段丘	縄文・奈良・平安
5	六反田遺跡	自然堤防	縄文～平安	15	大野田官衙通路	自然堤防	奈良
6	伊古田遺跡	自然堤防	縄文～平安	16	長町駅東遺跡	自然堤防	弥生・古墳末・奈良初
7	原崎浦遺跡	自然堤防・後背湿地	縄文・奈良・平安	17	西台畠道跡	自然堤防	縄文・弥生中・古墳
8	大野田古墳群	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	18	郡山遺跡	自然堤防・後背湿地	縄文・古墳～中世
9	王ノ塚遺跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	19	遠見原古墳	自然堤防	古墳
10	大野田遺跡	自然堤防・後背湿地	縄文・弥生	20	南小泉遺跡	自然堤防	縄文～近世

第1図 下ノ内浦遺跡の位置と周辺の遺跡

本遺跡の北側には約2万年前の旧石器時代の森林跡や焚き火跡が発見された富沢遺跡があり、焚き火の近くでは石器製作が行われていた。周辺では、山口遺跡、六反田遺跡、下ノ内遺跡、袋東遺跡、伊古田遺跡などが知られており、縄文時代から近世の居住域、生産域、墓域等に関わる多くの遺構が検出されている（第1図）。

第3章 調査の方法と経過

今回の調査は共同住宅建築工事に伴う事前調査である。調査対象地の現状は、確認調査終了後に4箇所のトレングリフが埋め戻され、更地となっている。



第2図 下ノ内浦遺跡第7次調査区位置図

第1節 調査区の設定

調査区は、確認調査で縄文時代と弥生時代の遺物包含層が確認された3トレンチと4トレンチを中心として、建物建設予定範囲の東側部分に設定することとした。事業主担当者および仙台市職員の立会いのもと、事業主手配による測量士が建物範囲の位置出しを行い、それを基準として調査区を設定した。調査面積は399m²である。

グリッドの設定は、日本測地系第X系の座標を使用して、X=198119.0 m, Y=3772.0 mを起点、X=198148.0 m, Y=3791.0 mを終点として行った。調査区北西にあたる起点をA1とし、東西をアルファベット、南北を数字で表記した(第2図)。

第2節 調査の方法

盛土と盛土以前の旧表土、確認調査トレンチの埋め戻し土、および無遺物層であるIV層の除去には重機を使用した。遺物包含層のⅢa～Ⅲd層とV層については、調査範囲を1m四方のグリッドに分割し、人力によって掘り下げた。遺物包含層の調査においては、グリッド・層位ごとに遺物の取り上げを行った。

図面の作製は、平面図及び地形測量はトータルステーションによる三次元計測によって行い、土壟断面図・遺物出土状況微細図などは手書き図面と写真実測を併用した。写真撮影は35mm リバーサルフィルム・モノクロフィルム及びデジタルカメラを使用した。調査区全景写真的撮影には、高所作業車と脚立を使用した。

第3節 調査の経過

調査区設定を8月19日に行い、同日、重機による盛土・旧表土の掘削を開始した。8月20日から基本層Ⅲa層上面で遺構検出作業を行った。Ⅲa層上面検出遺構の調査を終えた後、下層のⅢb～Ⅲd層およびIVa層の各

層上面で遺構の検出、調査を隨時行いながら、調査区全面を掘り下げた。10月19日にIV層を重機で除去し、V層上面で遺構の有無を確認した後、V層を人力により掘り下げ、VI層上面で検出された遺構の調査を行った。10月29日に高所作業車による調査区全景の写真撮影を行い、10月30日に撤収し、すべての現地調査を終了した。

第4章 基本層序

基本層は、大別6層に分かれる。I層とIV層は2層、III層は4層に細分される（第3図）。

I 層： I a 層（層厚 20 ~ 30cm）	10YR4/1 褐灰色	粘土	近世以降の水田耕作土
I b 層（層厚 0 ~ 40cm）	10YR6/1 褐灰色	シルト質粘土	近世以降の水田耕作土
II 層：（層厚 0 ~ 20cm）	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	近世以降の水田耕作土
III 層： III c 層	は調査区のほぼ全域で検出されたが、他の細分層は部分的な分布である。		
III a 層（層厚 0 ~ 25cm）	10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	弥生時代遺物包含層
III b 層（層厚 0 ~ 20cm）	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	弥生時代遺物包含層
III c 層（層厚 10 ~ 20cm）	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	弥生時代遺物包含層
III d 層（層厚 0 ~ 35cm）	5B4/1 灰黄褐色	粗砂	弥生時代遺物包含層
IV 層： IV a 層（層厚 5 ~ 40cm）	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	無遺物層
IV b 層（層厚 0 ~ 25cm）	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	風化礫を含む無遺物層
V 層：（層厚 5 ~ 30cm）	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	縄文時代遺物包含層
VI 層：（層厚 40cm以上）	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	

第5章 検出遺構と出土遺物

遺構は、III a 層上面、III b 層上面、IV 層上面、VI 層上面で検出された。検出遺構は、竪穴住居跡 2軒、竪穴遺構 1基、溝跡 35 条、土坑 18 基、自然流路跡 1 条、ビット 340 で、総数は 397 である。

遺物は、検出遺構内と III 層（弥生時代遺物包含層）、V 層（縄文時代遺物包含層）から出土している。出土遺物の点数は、縄文土器片 132 点、弥生土器片 4,443 点、非ロクロ調整の土師器片 77 点、ロクロ調整の土師器片 10 点、調整不明の土師器片 25 点、不明土製品 5 点、礫石器 7 点、打製石器 112 点、剥片 206 点、輕石 4 点、礫 14 点、珪化木 6 点の総数 5,041 点である。

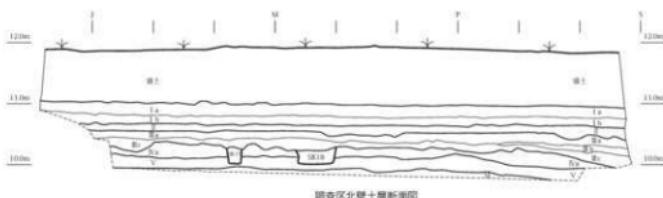
第1節 III a 層上面遺構と出土遺物

III a 層上面の遺構は竪穴住居跡 2軒、竪穴遺構 1基、溝跡 33 条、土坑 13 基、ビット 248 の合計 297 である（第4図）。

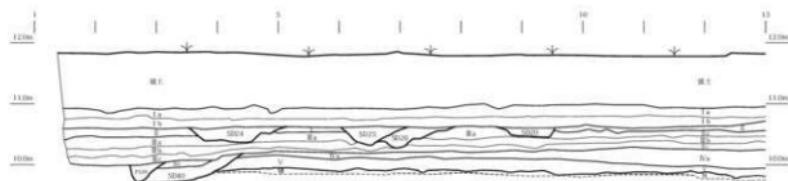
1. 竪穴住居跡・竪穴遺構

SI2、SI3 はカマドを有する竪穴住居跡であるが、遺構堆積土と III a 層・III b 層の層相が類似していたため明確に判別できず、III c 層での検出となった。III 層が弥生時代の遺物包含層であることから、III a 層より上からの掘り込みと判断されるため、第4図の III a 層上面遺構の配置図に掲載した。

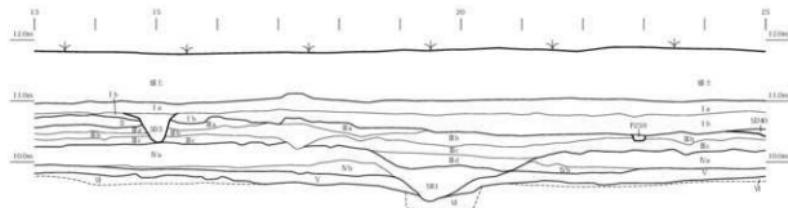
SI1 竪穴遺構（第5図） 調査区南東部で遺構の一部が検出された。大部分は調査区外の南側に延びるものである。北東隅を SD2 溝跡に切られる。竪穴住居跡の北東隅部分と考えられるが、調査区内でカマドや柱穴、周溝等は確認されなかったことから、竪穴遺構として報告する。平面形は方形と推定される。調査区内で確認された規模は、北辺部分 3.11m、東辺部分 1.15m である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は、最も良好に残存している東側で 27cm である。方向は東壁で N - 25° - W である。床面は平坦で、貼床や硬化面は確認されなかった。堆積土は 3 層に分けられる。



調査区北壁土層断面図



調査区東壁土層断面図①



調査区東壁土層断面図②



調査区東壁土層断面図

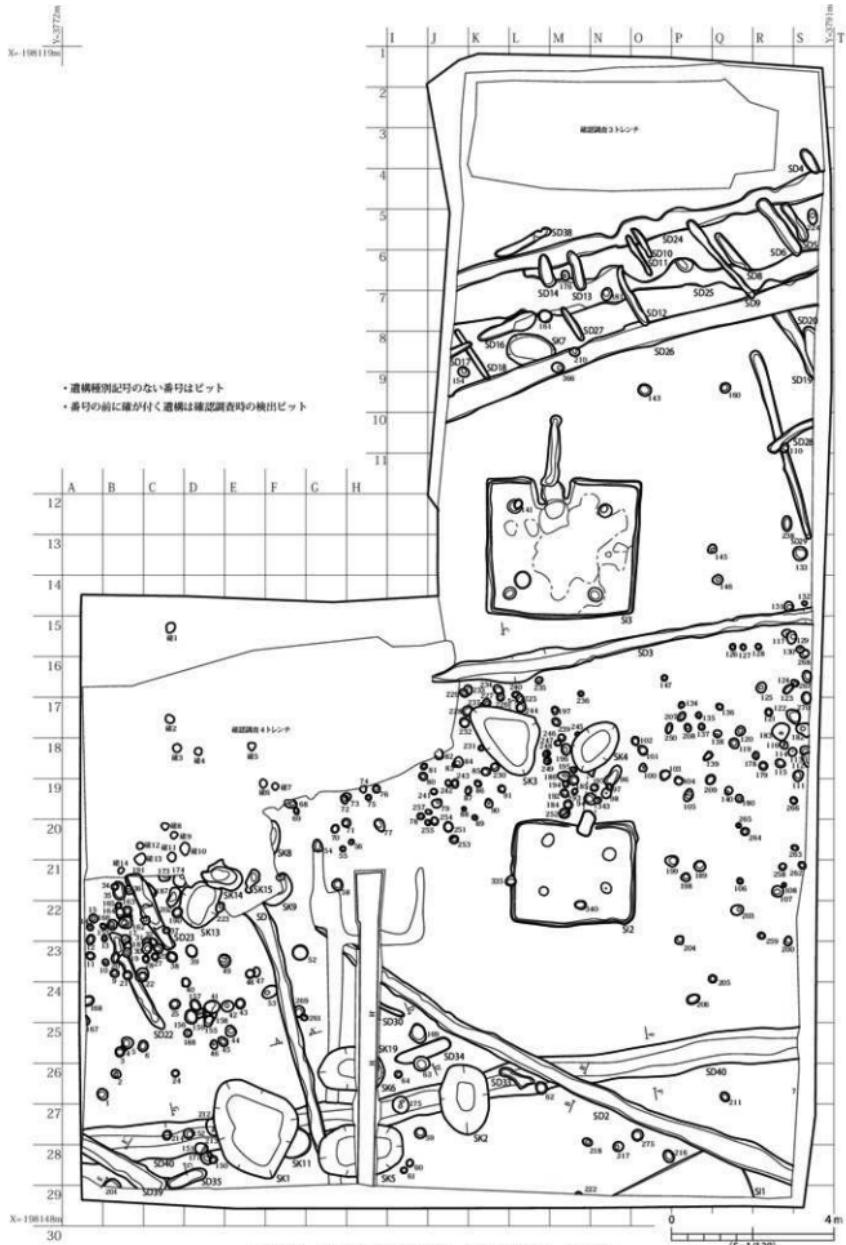
調査区北壁・東壁土層断面図 土層注記表

組別	色調	土性	記入人物・観者
1-a	褐色 (10YR4/1)	粘土	下部に鈍化鉄を多く含む。現代の水田耕作層。
1-b	褐灰色 (10YR6/1)	シルト質粘土	下部に鈍化鉄を多く含む。現代の水田耕作層。
2	褐灰土 (10YR5/1)	粘土質シルト	上部にマンキン層を多く含む。
3-a	黒褐色 (10YR3/2)	シルト質粘土	鈍化鉄・鐵鉱石を含む。調査区全域に認められる。
3-b	灰褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	粘土質シルト・鈍化鉄・鐵鉄化物を含む。
4	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	粘土・粘土ブロック・礫質シルト・粗砂・鈍化鉄を含む。
5	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	粘土ブロック・礫質シルト・調査区全域に認められる。

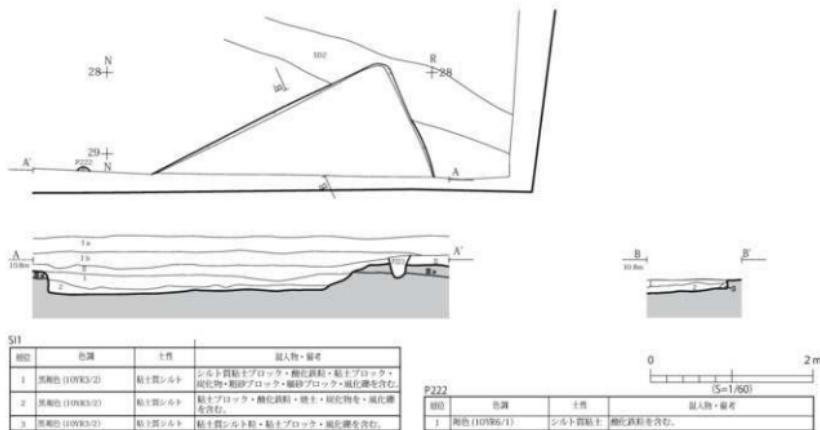
ピット 土層注記表

組別	色調	土性	記入人物・観者
P7-a	褐黄色 (5B4/1)	シルト質粘土	鈍化鉄を含む。粘土質シルトを少量含む。
P12-a	褐灰色 (10YR6/2)	砂質シルト	粘土・鈍化鉄を含む。調査区全域に認められる。
P13-a	赤褐色 (10YR4/2)	砂質シルト	粘土質シルト・鈍化鉄・鐵鉄化物を含む。
P13-b	黒褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	鈍化鉄・鐵鉄化物を含む。調査区全域に認められる。

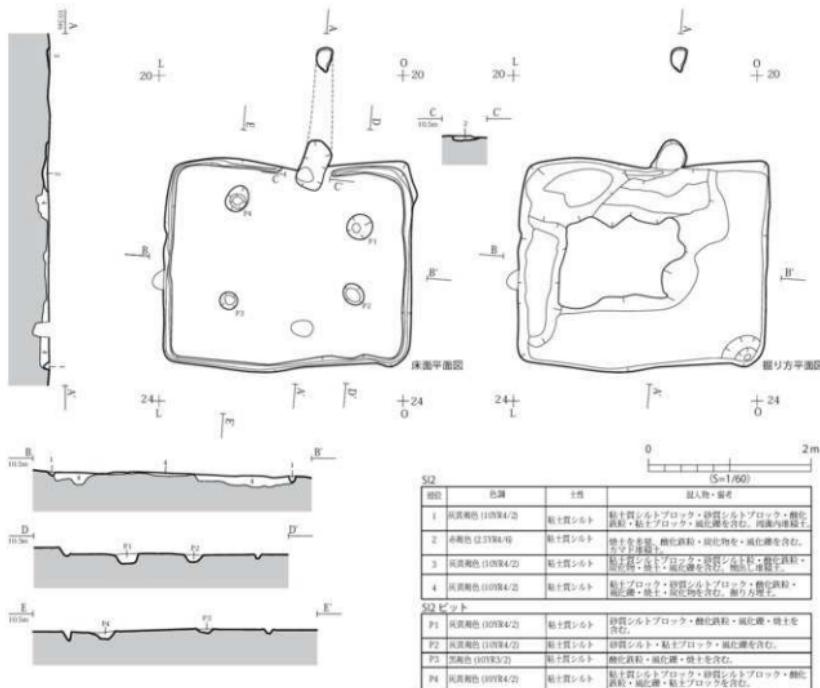
第3図 調査区北壁・東壁土層断面図 (1/80)



第4図 IIIa層上面検出遺構 遺構配置図 (1/120)



第5図 S11 穴穴遺構 平面図・土層断面図 (1/60)



第6図 S12 穴穴住居跡 平面図・土層断面図 (1/60)

底面直上の出土遺物はない。堆積土中から弥生土器 50 点、非ロクロ調整の土師器 4 点、調整不明の土師器片 1 点、輕石 1 点、炭化物片 1 点が出土している。いずれも小破片のため図化していない。

SI2 穫穴住居跡（第 6 図） 調査区中央南寄りで確認された。P335 と 340 に切られる。Ⅲ b 層を掘り下げⅢ c 層を検出する過程で確認したため、北東部分を除き、床面を少し削平した状態での検出となった。平面形は南北 2.52m、東西 3.02m の方形であり、北壁中央やや東寄りにカマドが敷設されている。方向は東壁で N - 3° - E である。壁高は最も残存している北東隅で 10cm を測る。床面は全面貼床されているが、硬化面は確認されなかった。主柱穴は 4 基検出されたが柱痕跡は確認されなかった。周溝はカマド部分を除き、ほぼ全周しておおり、幅 9 ~ 24cm、深さ 7cm で、U 字状の断面形を呈する。カマドは燃焼部と煙道部煙出しのピットを確認した。検出した時点ではカマド袖部分は既に失われ、火床面のみが残存していた。燃焼部は幅 30cm、奥行き 60cm の方形である。煙出しの一部と考えられるピットは、北壁から 87cm 離れた燃焼部北側の位置で確認された。平面形は不整形形を呈し、残存値は長軸 28cm、短軸 20cm、深さ 3cm である。住居跡の堆積土は 3 層に分かれる。1 層は周溝内堆積土、2 層はカマド内堆積土、3 層は煙道内堆積土である。4 層は掘り方埋土であり、掘り方はカマド前面から中央部分を残して掘り込まれている。

遺物は、堆積土から非ロクロ調整の土師器片 1 点、周溝堆積土から弥生土器片 1 点、掘り方埋土から非ロクロ調整の土師器片 4 点、弥生土器片 28 点、石核、打製石器、剥片各 1 点が出土している。このうち掘り方埋土から出土した弥生土器片 4 点を図化した（第 17 図 11、第 18 図 5、第 19 図 11・16）。これら弥生土器の詳細については第 3 節にまとめて報告する。

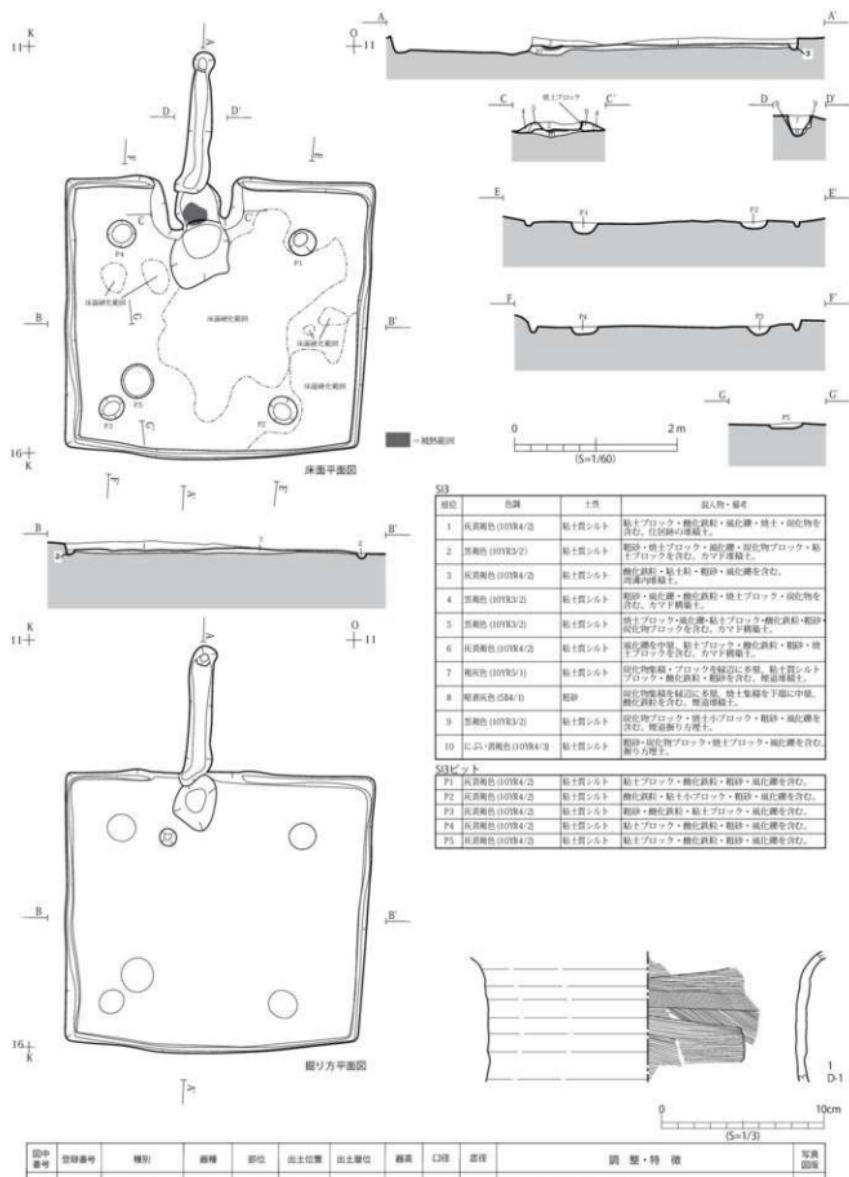
なお、SI2 穫穴住居跡では時期を特定できる遺物の出土はないが、東側の辺が SI3 穫穴住居跡の東側の辺とほぼ同方向を向き、ほぼ同一線上に並ぶことから、SI3 と同時期の遺構である可能性が考えられる。

SI3 穫穴住居跡（第 7 図） 調査区中央北寄りで確認された。P141 に切られる。Ⅲ b 層を掘り下げ、Ⅲ c 層を検出する過程で確認したため、西側では住居壁と堆積土が残存していたが、東側は床面での検出となった。平面形は方形で、規模は南北 3.30m、東西 3.61m である。方向は東壁で N - 5° - W である。壁高は最も残存している西壁中央で 15cm を測る。床面は全面貼床されており、中央から東側にかけて、周辺よりも硬化した範囲が確認された。床面では主柱穴を含むピットが 5 基検出されたが柱痕跡は確認されなかった。周溝はカマド部分を除きほぼ全周して確認された。幅 6 ~ 20cm、深さ 13cm で U 字状の断面形である。カマドは北壁中央やや西寄りに敷設されており、燃焼部および煙道部が確認された。煙道部の先端はピット状である。カマド前面に浅い窓みがある。燃焼部は幅 43cm、奥行き 80cm で、煙道部は幅 30cm、長さ 167cm である。住居跡の堆積土は 6 層に分かれる。1 層は住居内堆積土、2 層はカマド内堆積土、3 層は周溝内堆積土、4 ~ 6 層はカマド構築土、7・8 層は煙道内堆積土、9 層は煙道掘り方埋土、10 層は掘り方埋土である。掘り方は全体的に掘り下げられ、特にカマド燃焼部下を深く掘り廻めている。

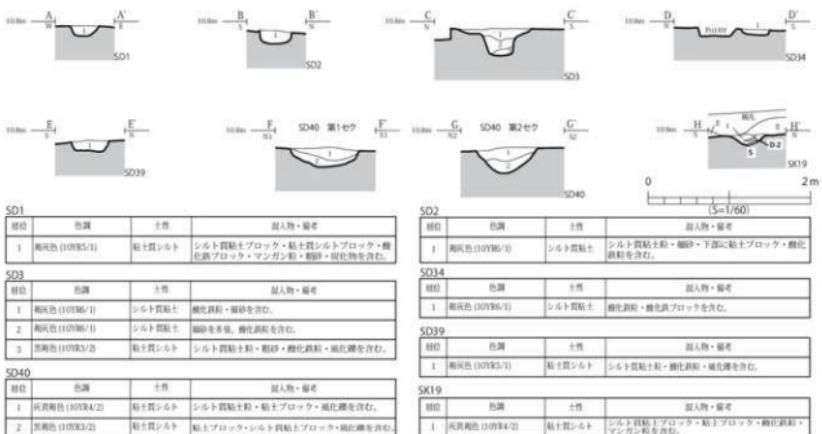
カマドの堆積土からロクロ調整の土師器片 4 点、調整不明の土師器片 3 点、剥片 2 点、炭化物片 1 点、弥生土器片 2 点が出土している。他に、床面直上から弥生土器片 6 点、煙道部から弥生土器片 1 点、剥片石器 1 点、住居内堆積土から非ロクロ調整の土師器片 2 点、ロクロ調整の土師器片と調整不明の土師器片各 1 点、弥生土器片 25 点、剥片、礫が各 1 点、周溝内堆積土から弥生土器片 6 点、SI3-P1 から弥生土器片 1 点、SI3-P4 から弥生土器片 2 点が出土している。このうち、カマド堆積土から出土したロクロ調整の土師器片 1 点（第 7 図 1）を図化した。外面にはロクロナデ、内面にはヘラナデが施されている。特徴から平安時代の表杉ノ入式期（氏家 1957）に比定される。

2. 溝跡

Ⅲ a 層上面では 33 条の溝跡が検出された（第 4・8 ~ 10 図）。このうち 32 条の溝跡はおもに基本層 I 層や II

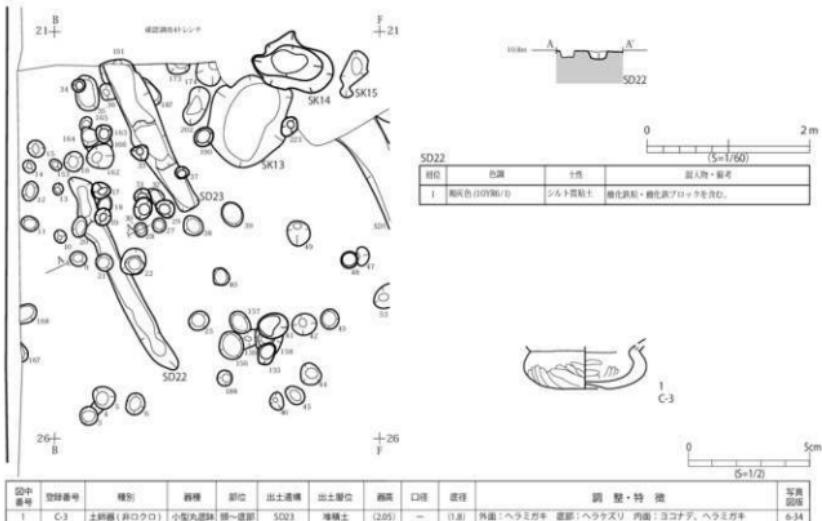


第7図 SI3 竪穴住居跡 平面図・土層断面図・出土遺物

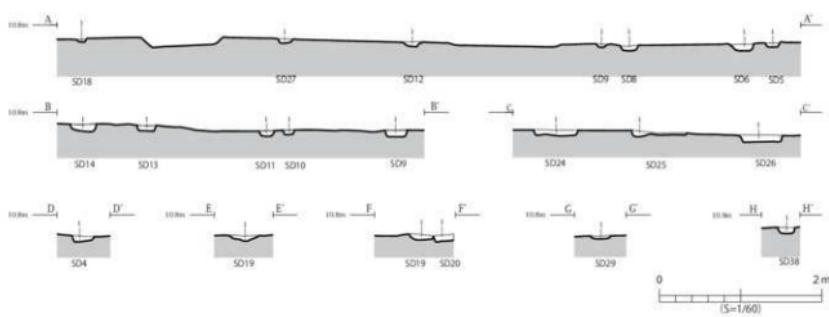
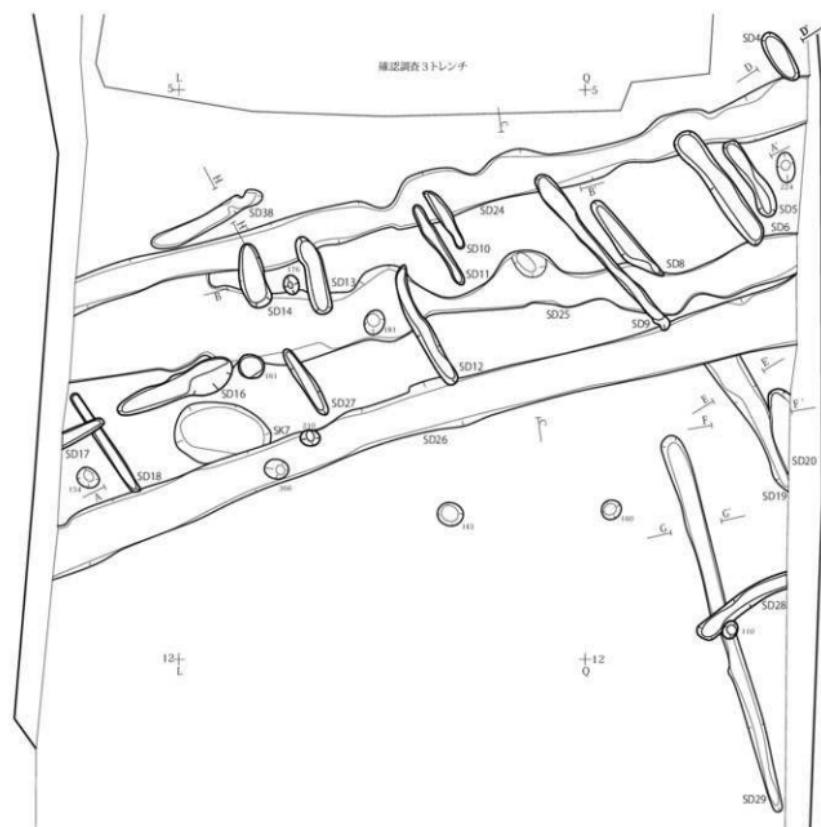


第8図 IIIa層上面検出溝跡・土坑 土層断面図 (1/60)

層を起源とする堆積土であり、近世以降のものと考えられる。全長1m前後の小規模な溝跡が大半を占めるが、検出長が6mを超える調査区外へ続くものもある。各溝跡の詳細については第1表を参照されたい。第9図1と第12図1にSD23溝跡およびSD26溝跡から出土した非クロコ調整の土器を掲載した。第9図1は古墳時代前期の塩釜式期(氏家1957)の小型丸底鉢である。外面は摩滅している。外面はヘラミガキ、内面はヨコナデ、ヘラミガキを施し、底部調整はヘラケズリである。第11図1は古墳時代中期の南小泉式期(氏家1957)の環である。外面は口縁部ヨコナデ、体部は調整不明、内面はヨコナデ、ヘラミガキを施している。なお、SD40溝跡については、堆積土の状況により古墳時代の可能性を考えられることから別に記述する。



第9図 IIIa層上面検出溝跡 平面図・土層断面図・出土遺物



第10図 調査区北側部分IIIa層上面検出溝跡 平面図・土層断面図 (1/60)

SD4	5・6・8・9・10・11・12・13・14・16・17・18・27・28・29・38		
部位	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR6/1)	シルト質粘土	礫化鉄粒・マンガンを含む。
SD20			
部位	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR5/1)	粘土質シルト	シルト質粘土粒・礫化鉄粒・マンガンを含む。
SD25			
部位	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR6/1)	シルト質粘土	シルト質粘土・ブロック・粘土質シルトブロック・礫化鉄粒を含む。

SD19			
部位	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR5/1)	粘土質シルト	シルト質粘土・ブロック・粘土質シルトブロック・礫化鉄粒・礫を含む。
SD24			
部位	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR6/1)	粘土質シルト	シルト質粘土・ブロック・粘土質シルトブロック・礫化鉄粒・礫を含む。
SD26			
部位	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR6/1)	粘土質シルト	シルト質粘土・ブロック・粘土質シルトブロック・礫化鉄粒・礫を含む。

調査区北側部分Ⅲa層上面検出溝跡（第10図） 土層注記表



箇号	跡跡番号	種別	面積	部位	出土遺構	出土單位	標高	口径	深度	調整・特徴	写真
1	C-4	土跡跡(跡跡C-4)	坪	口縁一部部	SD26	堆積土	(4.5)	—	—	外縁・口縁部コナデ・体部剥離不明 内縁：ヨコナデ・ヘラミガキ	6-35

第11図 SD26 溝跡出土遺物

SD40 溝跡（第4・8図） 調査区南部で検出された溝跡である。SD1・2・33・39 溝跡、SK1・2・5・11 土坑、P62・151・152・175・212～214に切られ、SK16・22 土坑を切っている。検出長は 17.81m で、さらに調査区外の東西へ続く。規模は上端幅 80～85cm、下端幅 11～15cm、深さ 13～31cm である。底面はほぼ平坦であるが西から東へ向かってわずかに低下しており、調査区内での比高差は 9cm である。方向は E - 8° - N である。断面形はやや開いた U 字形を呈する。後述する SK13 土坑と堆積土が類似しており、古墳時代の遺構の可能性がある。出土遺物は、弥生土器片 179 点、打製石器 2 点、剝片 3 点である。このうち、弥生土器片 5 点（第16図15、第17図4・10、第18図3、第20図8）を図化した。弥生土器の詳細は第3節でまとめて報告する。

3. 土坑

Ⅲ a 層上面では 14 基の土坑が検出された。調査区南側で多く確認されている。規模は長軸が 2m 前後のものと、1m 以下のものが多い。各土坑の詳細については、第2表を参照されたい。大部分の土坑の堆積土は、主に基本層の I 層や II 層を起源としており、近世以降の遺構と推定される。各土坑の出土遺物の詳細については、第7表を参照されたい。なお、SK13・19 土坑は、出土遺物からそれぞれ古墳時代、平安時代の時期と推定されることから

SK1	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR6/1)	シルト質粘土	礫化鉄粒を上部に含む。

SK3	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR6/1)	シルト質粘土	シルト質粘土・ブロック・礫化鉄粒・粘土質シルトブロック・砂質シルトブロック・下部に礫化鉄粒・砂・粗粒を含む。

SK5	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR5/1)	粘土質シルト	シルト質粘土・ブロック・砂質シルト・ブロック・礫化鉄粒・マンガンを含む。下部にブランク・集繭がみられる。

SK7	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR5/1)	粘土質シルト	粘土質シルト・ブロック・砂質シルト・礫化鉄粒・粗粒を含む。

SK9	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR5/1)	粘土質シルト	礫化鉄粒・粗粒を含む。

SK13	色調	土性	記入物・備考
1	黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	シルト質粘土・礫化鉄粒を多量、粘土質中筋・粗粒物、礫化鉄粒を含む。
2	黄褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	シルト質粘土・粗粒・礫化鉄粒を多量、粗粒を含む。

SK2	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR6/1)	シルト質粘土	シルト質粘土・礫化鉄粒を含み、シルト質粘土・粗粒・砂質シルトを含む。

SK4	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR6/1)	シルト質粘土	上部に礫化鉄粒・下部に粗粒を含み、シルト質粘土・ブロック・粘土質シルト・ブロック・マンガンを含む。

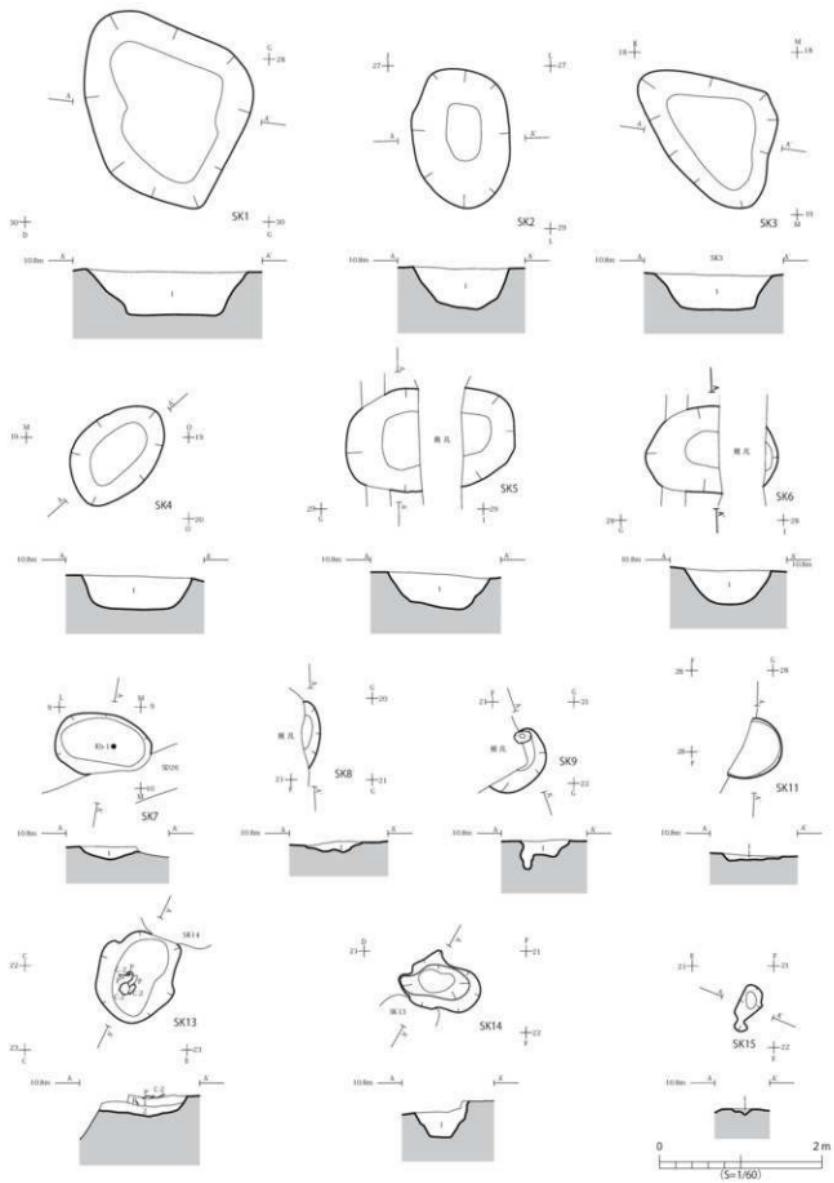
SK6	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR5/1)	粘土質シルト	シルト質粘土・ブロック・粘土質シルト・ブロック・マンガン集結のみられる。

SK8	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR5/1)	粘土質シルト	シルト質粘土・粗粒・礫化鉄粒・粘土質シルト・粗粒・小礫を含む。

SK11	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	礫化鉄粒・粗粒・礫化鉄粒を含む。

SK14	色調	土性	記入物・備考
1	褐色(10YR6/1)	シルト質粘土	シルト質粘土を上部に含む。

IIIa 層上面検出土坑（第12図） 土層注記表



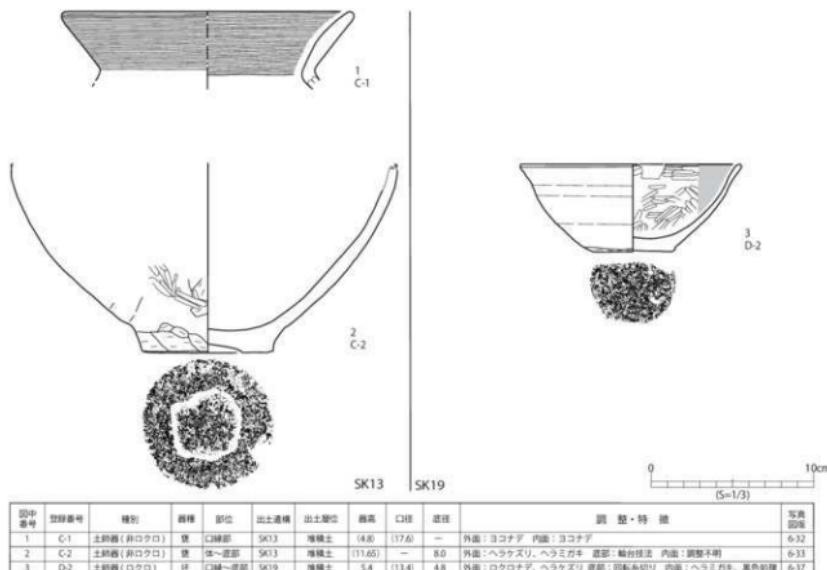
第12図 IIIa層上面検出土坑 平面図・土層断面図 (1/60)

個別に記述する。

SK13 土坑（第 11・13 図） 調査区中央部南西寄りで検出された土坑である。SK14 土坑、P190・223 に切られる。規模は、長軸残存長 110cm、短軸 94cm の楕円形で、深さは 25cm である。断面形はやや開いた U 字形で、底面は平坦である。堆積土中より弥生土器片 1 点、非クロクロ調整の土師器片 22 点、調整不明の土師器 3 点が出土している。第 13 図 1、2 に図示した土師器は同一個体である。口縁部には、内外面ともにヨコナデがみられる。体部から底部にかけての外表面はヘラケズリ、ヘラミガキ、内面は調整不明である。内外面ともに、粘土の剥離痕がみられる。底部は輪台技法によるものである。古墳時代中期の南小泉式期の時期に比定される。

SK19 土坑（第 4・8・13 図） 調査区南側中央部で検出された土坑である。撤去できなかった下水管の保持のため残していたベルトの壁を削っていた際に遺物が出土したことにより確認されたものである。したがって確認時の調査面がすでに遺構底面よりも下がっており、平面形は不明である。断面での規模は南北 53cm、深さ 12cm である。断面形は開いた V 字状を呈する。

遺物は板状の石の上にロクロ調整の土師器杯 1 点（第 13 図 3）が据えられた状態で出土している。3 はロクロ調整の土師器杯であり、その特徴から表杉ノ入式に比定される。外表面はロクロナデ、内面はヘラミガキ、黒色処理を施している。底部には糸切り痕がみられる。9 世紀頃の遺構と考えられる。



第 13 図 SK13・19 土坑出土遺物

4. ピット（第 4 図）

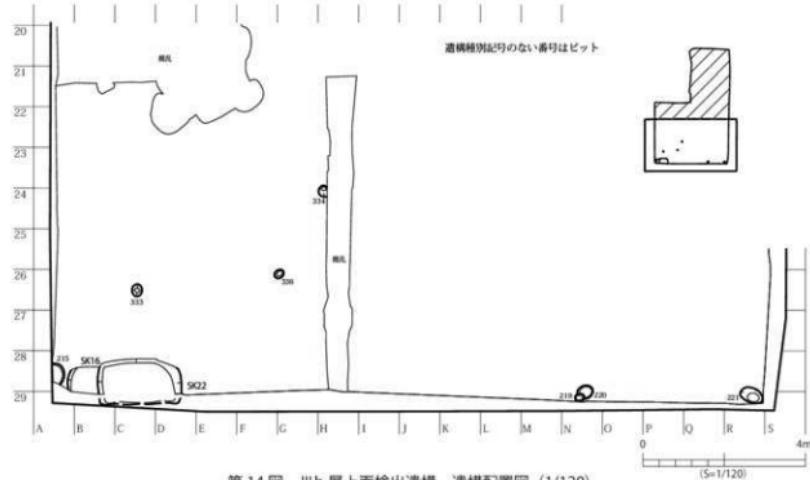
III a 層上面では計 249 のピットが検出された。ピットの平面形は円形・楕円形・不整円形・不整形で一定していない。規模は長軸 10 ~ 55cm、短軸 9 ~ 42cm、深さは 5 ~ 64cm である。最も多く見られるのは長軸 21 ~ 30cm、短軸 11 ~ 20cm、深さは 9 ~ 21cm である。堆積土は全て単層であり、おもに基本層の I 層を起源としている。柱根や柱痕跡を持つものは確認されなかった。

遺物は 34 のピットから出土しており、弥生土器片、非クロクロ調整の土師器片、ロクロ調整の土師器片、調整不明の土師器、剥片等がみられる。このほかに確認調査時に 14 のピットを調査している。確 P1・3・4 からは弥生土

器片が各1点ずつ出土している。いずれも小破片のため図化するまでにいたらなかった。

第2節 III b 層上面遺構

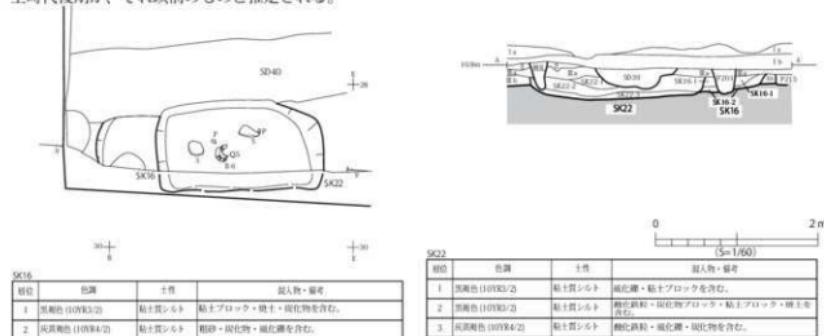
III b 層上面で検出された遺構は土坑2基とピット7である(第14図)。



第14図 III b 層上面検出遺構 遺構配置図 (1/120)

1. 土坑

SK16 土坑(第15図) 調査区南西隅で検出された土坑である。SD39・40溝跡、SK22 土坑、P201 に切られ、南側は調査区外へ延びるため平面形は不明である。規模は、長軸残存長 83cm、短軸 70cm で、深さは 23cm である。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は 2 層からなる。出土遺物はない。SK22 との重複関係より弥生時代後期か、それ以前のものと推定される。



第15図 III b 層上面検出土坑 平面図・土壌断面図 (1/60)

SK22 土坑(第15図) 調査区南西隅で検出された土坑である。SD40溝跡に切られ、SK16 土坑を切っている。調査終了時に調査区壁側を精査し、遺構の南壁を確認した。平面形は隅丸長方形と考えられる。規模は長軸 198 cm、短軸現存長 74 cm で、深さは 38 cm である。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は 3 層からなり、III a 層を起源とする土壤を主体としている。

堆積土中からの出土遺物は、弥生土器片 74 点、剥片 1 点、礫 3 点である。遺構の中央の位置で堆積土 1 層中から、天王山式の広口壺（第 19 図 5）が口縁部を下にして斜めの状態で出土している。ほかに堆積土中出土の土器片 2 点（第 18 図 9、第 19 図 3）を図化した。これらの出土遺物から弥生時代後期に属すると考えられる。

2. ピット（第 14 図）

ピットの平面形は不整円形・不整形で、規模は長軸 24 ~ 58cm、短軸 18 ~ 36cm、深さは 1 ~ 27cm である。堆積土は全て單層で、基本層Ⅲ a 層を起源としている。柱根や柱痕跡は確認されなかった。

P215 と P221 から弥生土器片が出土しているが、いずれも小破片のため図化するまでにいたらなかった。

第 3 節 Ⅲ 層出土遺物

弥生時代の遺物包含層であるⅢ a ~ d 層より出土した弥生土器に、層位間で形式的に大きな差異が認められなかったことから、この節では、遺構出土資料を含め、種別毎に一括して記載する（第 16 ~ 23 図）。

基本層Ⅲ層及びⅢ a 層上面からの出土遺物は、弥生土器 3,603 点、不明土製品 4 点、礫石器 7 点、打製石器 84 点、剥片 167 点、輕石 2 点、礫 6 点、珪化木 2 点の計 3,875 点である。

1. 弥生土器（第 16 ~ 20 図）

土器はすべて破片資料で、内外面とも摩滅しているものが多く、遺存状態は必ずしも良好ではない。遺構および包含層出土の資料数は 4,434 点で、これらは、第Ⅰ群土器から第Ⅲ群土器に分類される（第 7 表）。なお分類にあたっては、本遺跡第 4 次発掘調査報告書（仙台市教委 1993）に準拠した。

(1) 第Ⅰ群土器（第 16 図）

弥生時代中期後葉の十三塚式に比定される土器群である。遺構およびⅢ a ~ d 層から出土しているが、総数 16 点と少ない。全て破片資料である。図化した資料はいずれも壺か甕の一部と考えられる、口縁部から体部上半にかけての資料である。

すべて半裁竹管状・櫛歯状施文具による同時施文の平行沈線文が施され、3 本一画のもの（第 16 図 1 ~ 4）、2 本一画のもの（第 16 図 5）がある。これらの文様はいずれも体部上半以上に施文されている。文様には連弧文（1 ~ 4）と菱形文（5）があり、それらは重層重巻される。1 は口縁部資料である。口縁部下の半裁竹管状の文様は直線で、その直下の文様から連弧文を施す。5 は 2 本一画であるが、沈線の深度が異なり、左側の沈線はすべて浅い。

(2) 第Ⅱ群土器（第 16 図）

弥生時代後期の天王山式に比定される土器群である。Ⅲ層の各細分層から粗密なく出土しており、合計 135 点を数える。全て破片資料で、全体の器形・文様が判るものはない。

第Ⅱ群土器は口縁部資料・体部資料・底部資料・部位不明資料に分け、取り扱った。なお、各部位資料の数量に関しては、口縁部～体部資料のものは口縁部資料数、体部～底部資料のものは底部資料数に含めた。

口縁部資料（第 16 図）

明確に器種がわかるものはないが、壺や甕の口縁部と考えられる。口縁部資料は下半文様の有無・加飾方法、形態により以下の A ~ C 類に分類される。

A 類：口縁部の下部に装飾を加えるもので、この部位が分離されるもの。これらはさらに加飾方法の違いにより、以下の 2 類に細分される。

A1 類：口縁部末端に新たに粘土を貼付し、押圧圧痕あるいは刺突を加えるもの（第 16 図 6 ~ 11）。

口縁部末端に貼付された粘土には、押圧圧痕あるいは刺突が、上方・下方に加えられるもの（6・7 A1 類①）、押圧圧痕が下方のみに加えられるもの（8 ~ 11 A1 類②）の 2 者が認められる。

A1 類①は上方に刺突、下方に押圧圧痕が交互に加えられ、交互刺突類似文となる。口縁部末端から上には、下から上へ縱に押し引いたスリット状の刺突文（6）、斜行縹文（7）が施文される。6 は竹管状の工具を用いて

上方の刺突および下方の押圧痕を施し、口唇部に斜行縄文を施している。7は口縁部内面にも斜行縄文が施される。

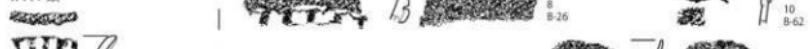
A1類②は、波状文が作り出されている。口縁部末端から上には、斜行縄文のみのもの(8・9)、斜行縄文上に綾縞文を施文するもの(10・11)がある。8・9は口唇部および口縁部内面にも斜行縄文を施し、幅の広い粘土を貼付けて波状文を作っている。10・11は細い紐状の粘土を貼付け、波状文を作っている。11は体部外

第I群



第II群

II A1類



II A2類



①

②



図版号	登録番号	断面	部位	出土土地名	出土層位	性質	調 整・特 徴		分類	写真図版
							外観	内面		
1	B-10	直	口縁部	S025	堆積土	—	外観：3本一列、直線文。波状文。口縁内面：ナデ	内面：ナデ	I	4-9
2	B-40	直	口縁部	OB	IIa	—	外観：3本一列、直線文。内面：ナデ	内面：ナデ	I	4-10
3	B-25	直	口縁部	第4トレンチ	III	堆積土	外観：3本一列、直線文。内面：ナデ	内面：ナデ	I	4-11
4	B-19	直	口縁部	P286	IIa	堆積土	外観：3本一列、直線文。内面：ナデ	内面：ナデ	I	4-12
5	B-65	直	口縁部	B22	IIc	—	外観：3本一列、直線文。内面：ナデ	内面：ナデ	I	4-13
6	B-49	直	口縁～部	O6	IIIb	—	外観：口縁～一部位(直線文) 口縁下半→交互列突起紋文(上：押圧、下：押圧) 口縁上半→ストリット文 内面：摩滅	内面：摩滅	II A1	4-14
7	B-63	直	口縁部	L23	IIc	—	外観：口縁～一部位(直線文) 口縁下半→波状文(下：押圧) 口縁上半→横位LR縞文 口縁内面：横位LR縞文	内面：横位LR縞文	II A1	4-15
8	B-26	直	口縁部	南東部	IIa 上面	—	外観：口縁～一部位(直線文) 口縁下半→波状文(下：押圧) 口縁上半→横位LR縞文 口縁内面：横位LR縞文	内面：横位LR縞文	II A1	4-16
9	B-32	直	口縁部	B24	IIa	—	外観：口縁～一部位(直線文) 口縁下半→波状文(下：押圧) 口縁上半→横位LR縞文 口縁内面：横位LR縞文	内面：横位LR縞文	II A1	4-17
10	B-62	直	口縁～部	M6	IIc	—	外観：口縁下半→波状文(下：押圧) 口縁上半→横位LR縞文 縞結文 口縁内面：ナデ、摩滅	内面：ナデ、摩滅	II A1	4-18
11	B-9	直	口縁～部	N9	IIa	—	外観：口縁下半→波状文(下：押圧) 口縁上半→横位LR縞文 縞結文 体～横位LR縞文 縞結文 口縁内面：上半～横位LR縞文 縞結文 体～横位LR縞文 縞結文	内面：ナデ	II A1	4-19
12	B-22	直	口縁～部	SR1	堆積土	—	外観：口縁下半→交互列突起紋文(上：押圧、下：押圧) 口縁上半：沈凹 内面：ナデ	内面：ナデ	II A2	4-20
13	B-60	直	口縁～部	B25	IIc	—	外観：口縁下半→交互列突起紋文(上：押圧、下：押圧) 口縁上半～横位 LR縞文 口縫内面：ナデ、摩滅	内面：ナデ、摩滅	II A2	4-21
14	B-36	直	口縁～部	A23	IIa	—	外観：口縁下半→交互列突起紋文(上：押圧、下：押圧) 口縁上半～横位 LR縞文 口縫内面：ナデ	内面：ナデ	II A2	4-22
15	B-16	直	口縁部	SD40	堆積土	—	外観：口縁下半→交互列突起紋文(上：押圧、下：押圧) 口縁上半～横位 LR縞文 口縫内面：ナデ	内面：ナデ	II A2	4-23
16	B-33	直	口縁～部	Q27	IIIb	—	外観：口縁～一部位(直線文) 口縁下半→波状文(下：押圧) 口縁上半→横位LR縞文 口縫内面：ナデ、摩滅	内面：ナデ、摩滅	II A2	4-24
17	B-34	直	口縁～部	R26	IIb	—	外観：口縁～一部位(直線文) 口縁下半→波状文(下：押圧) 口縁上半→横位LR縞文 沈凹 横位LR縞文 口縫内面：ナデ、摩滅	内面：ナデ	II A2	4-25
18	B-52	直	口縁～部	L21	IIb	—	外観：口縁～一部位(直線文) 口縁下半→波状文(下：押圧) 口縁上半→横位LR縞文 沈凹 横位LR縞文 口縫内面：ナデ	内面：ナデ	II A2	4-26
19	B-27	直	口縁～部	南東部	IIa 上面	—	外観：口縁下半→斜行文 口縁上半→斜行文 口縫内面：ナデ	内面：ナデ	II A2	4-27

第16図 弥生土器①

面の下方と口縁部内面にも線絵文がみられる。

A2類：口縁部下部にS線を引き下端を分離し、押圧圧痕あるいは刺突を加えるもの（第16図12～19）

口縁部下部の分離部分には、押圧圧痕あるいは刺突が、上方・下方に加えられるもの（第16図12～15
A2類①）、押圧圧痕あるいは刺突が下方のみ加えられるもの（第16図16～19 A2類②）の2者が認められる。

A2類①は交互刺突類似文となる。12～14は上方に刺突、下方に押圧圧痕が交互に加えられている。15は上方に押圧圧痕、下方に刺突が交互に加えられている。各土器の口縁部下部より上は無文である。

A2類②は、押圧圧痕が加えられ波状文を作っているもの（16～18）、斜めに刺突が加えられているもの19の2者がある。口縁部より上には斜行繩文（16・17）、斜行縄文とS線が施文されるもの（18）がある。また16・18は、口唇部および体部に斜行縄文を施文する。19は口縁部下部より上は無文である。

B類：口縁部の下部に装飾を加えるもので、この部位が分離されないもの。これらはさらに加飾方法の違いに

第II群 II B1類



第II群 II B2類



第II群 II C1類



第II群 II C2類



0 10cm
(S=1/3)

図中	登錄番号	種類	部位	出土地区	出土土層	直徑	調整・特徴	分類	年期
1	B-24	直or横	口縁～傾部	第四土上層	II	- 外面：口縁～傾部 LR 繩文 口縁下半～斜方施文類似文（上：刺突 下：押圧） 口縁下半～斜方施文類似文（上：押圧 下：斜方）	II B1	4.28	
2	B-13	直or横	口縁～傾部	S226	- 外面：口縁下半～斜方施文類似文（上：刺突 下：押圧） 口縁上半～波状文 山形状突起 口縁内面：ナデ	II B1	4.29		
3	B-37	直or横	口縁～傾部	Q29	- 外面：口縁下半～斜方施文類似文（上：押圧 下：斜方） 口縁上半～波状文 LR 繩文 口縁内面：ナデ 波状口縁の可能性あり	II B1	4.30		
4	B-15	直or横	口縁～傾部	S240	- 外面：口縁下半～斜方施文類似文（上：押圧 下：斜方） 口縁内面：ナデ 波状口縁の可能性あり	II B1	4.31		
5	B-33	直or横	口縁～傾部	B24	- 外面：口縁～傾部 LR 繩文 口縁下半～斜方文 口縁上半～波状文 LR 繩文 口縁内面：ナデ	II B2	4.32		
6	B-12	直or横	口縁～傾部	S226	- 外面：口縁下半～斜方文 口縁下半～斜方文 口縁内面：ナデ	II B2	4.33		
7	B-35	直or横	口縁～傾部	P8	- 外面：口縁下半～斜方文 口縁下半～斜方文 口縁内面：ナデ	II B2	4.34		
8	B-50	直or横	口縁～傾部	S7	- 外面：口縁下半～斜方文 口縁下半～斜方文 口縁内面：ナデ	II B2	4.35		
9	B-64	直or横	口縁～傾部	M24	- 外面：口縁下半～斜方文 口縁下半～斜方文 LR 繩文 口縁内面：ナデ 摩滅	II B2	4.36		
10	B-14	直or横	口縁～傾部	S240	- 外面：口縁下半～斜方文 口縁下半～斜方文 LR 繩文 口縁内面：ナデ	II B2	4.37		
11	B-2	直or横	口縁	S2	- 外面：口縁～傾部 LR 繩文 口縁下半～斜方施文類似文 口縁内面：ナデ	II B2	4.38		
12	B-34	直or横	口縁～傾部	F27	- 外面：口縁～傾部 LR 繩文 口縁内面：ナデ	II C1	4.39		
13	B-61	直or横	口縁～傾部	M6	- 外面：口縁～傾部 LR 繩文 口縁～傾部 LR 繩文 口縁内面：ナデ	II C1	4.40		
14	B-51	直or横	口縁～傾部	G6	- 外面：口縁～傾部 LR 繩文 口縁～傾部 LR 繩文 口縁内面：ナデ LR 繩文	II C1	4.41		
15	B-11	直or横	口縁～傾部	S226	- 外面：口縁～傾部 LR 繩文 口縁～傾部 LR 繩文 口縁内面：ナデ 山形状突起	II C2	4.42		
16	B-31	直or横	口縁	N7	- 外面：口縁～傾部 LR 繩文 口縁～傾部 LR 繩文 口縁内面：ナデ	II C2	4.43		
17	B-39	直or横	口縁部	N8	- 外面：口縁～傾部 LR 繩文 口縁～傾部 LR 繩文 口縁内面：ナデ	II C2	4.44		

第17図 弥生土器③

より、以下の2類に細分される。

B1類：下部と末端に交互の刺突あるいは押圧痕を加えるもの（第17図1～4）

下部に刺突が加えられ、末端には押圧痕（1・2）、刺突（3・4）を加える2者がある。

末端に押圧痕を加える1の下部より上の文様は斜行縄文である。2の刺突はコの字状の工具を用いている。下部より上の文様は2条の沈線を施し、口縁部に刻みを有することから山形状の口縁部を構成する。末端に交互の刺突を加える3と4は、断面形が長方形の工具を用い交互に刺突を行い鋸歯状の文様を施す。下部より上の文様は1条の沈線である。

B2類：末端のみに押圧痕を加えるもの（第17図5～11）

末端より上は、斜行縄文のみのもの（5）、無文のもの（6～9）、矢羽状沈線のもの（10・11）がある。5は口唇部に斜行縄文を施している。10と11は同一個体である。10は口唇部に斜行縄文を施し、11は矢羽状沈線の左側に、山状に丸みをもつ粘土を貼付け、5列に縫に並ぶ刺突と1つの貫通孔を施す。

C類：下部に装飾を加えないもの。これらは末端の段の有無により、以下の2類に細分される。

C1類：A類、B類と同様に明瞭な段を持つもの（第17図12～14）

口縁部上は斜行縄文のみのもの（12・13）、斜行縄文と沈線のもの（14）がある。12は体部に、13と14は口唇部および口縁部内面に斜行縄文を施す。13は波状口縁である。

C2類：明瞭な段を持たないもの（第17図15～17）

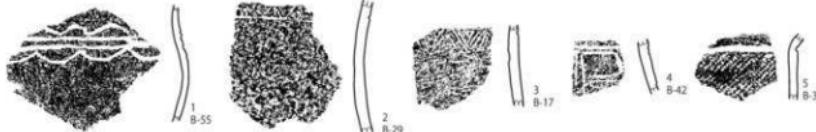
口縁部は肥厚するが、末端に明瞭な段を持たず、頸部に移行するものである。ただし、口縁部直下に沈線文を巡らし口縁部を明確にするものもある（15）。文様は斜行縄文と沈線のもの（15～17）がある。15と16は同一個体であり、口唇部に斜行縄文を施す山形状の口縁部である。17は磨消縄文である。

体部資料（第18図1～9）

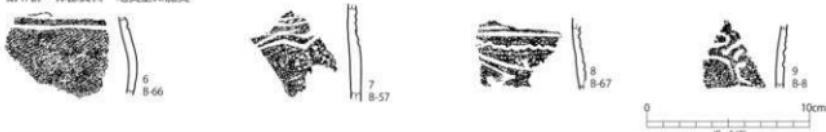
頸部を含めた資料で、地文以外の文様をもつものである。明確な器種は不明であるが、口縁部資料同様その多くは壺や甕と考えられる。

文様は沈線文のみである。無文上に施文されるもの（1～5）と、地文上に施文されるもの（6～9）がある。無文上に施文される沈線文には、連弧文（1）、鋸歯文（2・3）、方形を描くもの（4）、直線文（5）がある。3は地文を

第二群 体部資料 沈線文



第二群 体部資料 地文上に施文



団中 番号	豆目 番号	器種	部位	出土地区 ・遺構	出土層位	遺徴	調査・特徴	分類	写真 範囲
1	B-55	壺 or 瓢	体部	22	—	外面：沈線、波状文 内面：ナデ	—	II	5-1
2	B-29	壺 or 瓢	体部	東南部	Ba上層	外面：体上半-1横線、波状文 内面：ナデ	—	II	5-2
3	B-17	壺 or 瓢	体部	5040	堆積土	外面：体下半-1横線 (LR縦文 体上半-2横線 3、4条で横筋を施す) 内面：ナデ	—	II	5-3
4	B-42	壺 or 瓢	体部	127	Ba	外面：波状 (LR) 文様を施す 内面：ナデ	—	II	5-4
5	B-3	壺 or 瓢	体部	52	前方堆土	外面：体上半-ナデ、波状 (LR) 文様を施す 内面：ナデ	—	II	5-5
6	B-66	壺 or 瓢	体部	824	—	外面：波状、圓錐文、横筋 LR 織文 内面：ナデ	—	II	5-6
7	B-57	壺 or 瓢	体部	27	—	外面：波状、連弧文の変形、横筋 LR 織文 (波状溝文)、横筋孔あり 内面：ナデ	—	II	5-7
8	B-67	壺 or 瓢	体部	96	—	外面：波状、波状文、横筋 LR 織文 (波状溝文) 内面：ナデ	—	II	5-8
9	B-8	壺 or 瓢	体部	922	堆積土	外面：波状、波状文、横筋 LR 織文、圓錐文 内面：ナデ	—	II	5-9

第18図 弥生土器③

施した後に沈線を施文するが、沈線文を入れる範囲には地文を施文していない。5は沈線文を施文した後に地文を施文している。地文上に施文されるものの沈線文には、直線文(6)、弧文を変形させたもの(7)、波状文(8)、弧状のもの(9)がある。そのうち、7～9は磨消縄文である。

(3) 第Ⅲ群土器(第19図)

第Ⅰ・Ⅱ群以外の主として地文のみのもの、無文のものを第Ⅲ群土器とした。第Ⅰ群土器および第Ⅱ群土器の胎土などの観察を行った結果、第Ⅲ群土器は第Ⅱ群土器の天王山式期のものと考えられる。

口縁部資料(第19図1～6)

地文のものは1～3である。1・2は口唇部および内外面に斜行縄文を施文している。2・3は波状口縁である。無文のものは4～6である。4は小型の壺で底部外面に木葉痕が認められる。5は粗製広口壺である。ミガキはなく、外面には一部指圧痕が認められる。

蓋資料(第19図7)

伏鉢状の蓋であるが、上部が破損しているため、つまみの有無は判断できない。外面には斜行縄文単節LRが施されている。

体部資料(第19図8～17)

地文の体部は斜行縄文が殆どであるが、16のみ撚糸文である。その他は、斜行縄文単節LRのもの(8～12)、斜行縄文単節RLのもの(13・14)、斜行縄文無節RLのもの(15)である。12は、体部上半に粒の細かい斜行縄文LRを施文し、その上から粒の大きい斜行縄文LRを施文している。14は頭部が「く」状に屈曲する小型の壺である。無文の体部は17の1点のみである。補修孔がみられる。

底部資料(第20図1～11)

底部の器形は平底あるいは、やや上げ底になるもの(1～9)、外面中央が窪む強い上げ底のもの(10・11)がある。体部末端の器形にはやや膨らむもの(3)、外側にやや張り出すもの(1・5～9)がある。底部の外面は木葉痕が多いが、1は斜行縄文が施文されている。

2. 不明土製品(第20図12)

残存値で、長さ4.0cm以上、幅3.3cm以上、厚さ0.6cm程度である。縁辺はすべて欠損し、中央部がドーム形に膨れている。縁辺の一部に摩滅が観察される。異形土器の一部の可能性も考えられる。

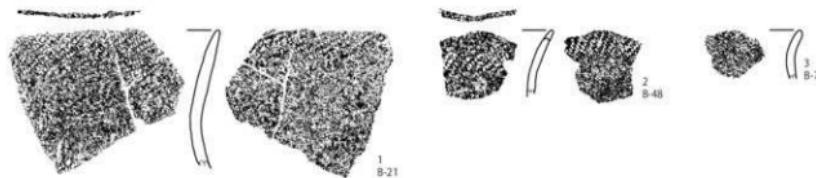
3. 石器(第21～23図)

石器の出土点数は322点である。

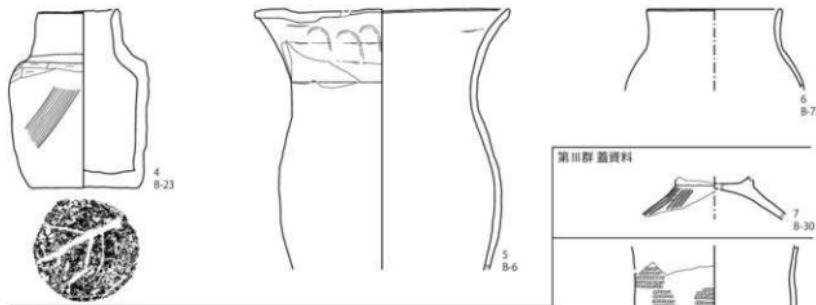
確認された器種は石礫、尖頭器、石錐、ビエス・エスキュー、二次加工痕を有する剝片、微細剥離痕を有する剝片、剝片、石核、石錐、敲打具に転用されたと考えられる磨製石斧、礫石器、石皿である。用いられている石材には、流紋岩、碧玉、黒曜岩、ディサイト質砂岩などがある。

石礫には、アメリカ式石礫(第21図1～3)と、基部が破損したもの(第21図4)がある。アメリカ式石礫は4点出土しているが、3は唯一の完形品である。1～3は基部が平坦で基端寄りに深い抉りが両側縁に作られている。5～7は石礫の未製品である。5は先端部と右側縁が欠損している。表裏両面のほぼ全縁辺に細部調整がみられる。基端の調整が、アメリカ式石礫の調整に類似することから、アメリカ式石礫の未製品と考えられる。1～3のアメリカ式石礫と比較すると、表裏両面の中央部が厚いことから製作作業を中断したものと考えられる。6は表面左側縁及び裏面右側縁に粗い細部調整がみられる。表裏両面の中央部には、素材剥片の剥離面が残されている。全体の形状から石礫の未製品と判断される。7は表面の全縁辺及び裏面の左側縁に細部調整がみられる。表面の左側縁には特に細かな細部調整を加えているが、その裏面にあたる右側縁には細部調整がみられない。この細部調整を加えている際に、先端部が破損してしまったものと考えられる。尖頭器は、脣部に抉りをもつ(第21図8)。この抉り

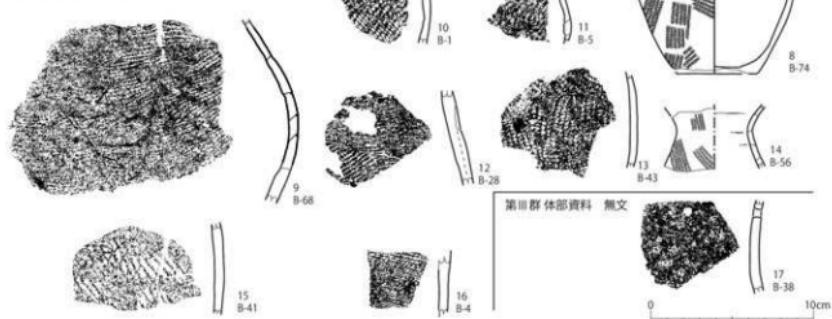
第三群 口縁部資料 地文



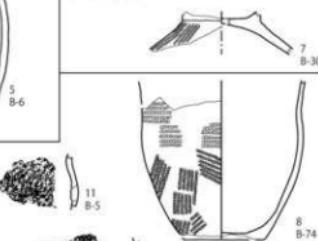
第三群 口縁部資料 無文



第三群 体部資料 地文



第三群 蓋資料



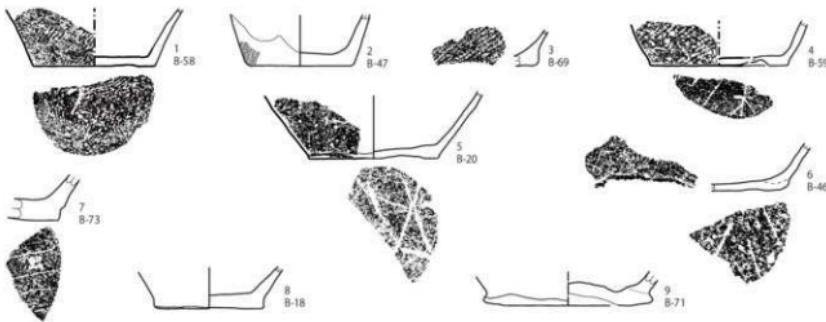
第三群 体部資料 無文



図中 登録 番号	登録 番号	器種	部位	出土地区 ・遺跡	出土層位	性質	調 整・特 徴	分類	写真 回数
1	B-21	壺 or 壺	口縁～側部	Pt319	堆積土	—	外面：口縁～側位 LR 織文 口縫上半→横位 LR 織文 内面：口縫下半→横位 LR 織文	Ⅲ	5-10
2	B-48	壺 or 壺	口縁～側部	O6	Bb	—	外面：口縁～側位 LR 織文 口縫上半→横位 LR 織文	Ⅲ	5-11
3	B-7	壺 or 壺	口縁～側部	S22	堆積土	—	外面：LR 織文 口縫内面：ナデ 波状線彫	Ⅲ	5-12
4	B-23	壺	口縫～底部	第4トレンチ	H	60	外面：体部→ラカズニ、ヘラナデ、ナデ 波状→木葉彫 口縫内面：ナデ 先形	Ⅲ	5-13
5	B-6	広口壺	口縫～全体	S22	堆積土	—	外面：伝庄彥 内外面：一部スヌ付面 口縫内面：ナデ	Ⅲ	5-14
6	B-72	壺	口縫～全体	P20	Hd	—	外面：無文 内面：ナデ	Ⅲ	5-15
7	B-30	壺	直部	南東部	Hd 上面	—	外面：横位 LR 織文 内面：ナデ	Ⅲ	5-16
8	B-74	壺	口縫～底部	I23	Hd (43)	—	外面：横位 LR 織文 内面：ナデ	Ⅲ	5-17
9	B-68	壺 or 壺	体部	I24	Hc	—	外面：横位 LR 織文 内面：ナデ 黏土斑痕	Ⅲ	5-18
10	B-1	壺 or 壺	体部	N28	Hc	—	外面：横位 LR 織文 織紋文 内面：ナデ、三方牛	Ⅲ	5-19
11	B-5	壺 or 壺	口縫～体部	S2	握り方理土	—	外面：横位 LR 織文 内面：ナデ	Ⅲ	5-20
12	B-28	壺 or 壺	直部	南東部	Hd 上面	—	外面：横位 LR 織文 橫位 LR 織文 内面：ナデ 黏土點付面あり	Ⅲ	5-21
13	B-43	壺 or 壺	体部	Q28	Hd	—	外面：横位 LR 織文 内面：ナデ	Ⅲ	5-22
14	B-56	壺	直部	G22	Hb	—	外面：横位 LR 織文 内面：ナデ	Ⅲ	5-23
15	B-41	壺 or 壺	体部	J7	Ha	—	外面：無文 LR 織文 内面：ナデ	Ⅲ	5-24
16	B-4	壺 or 壺	体部	S2	握り方理土	—	外面：無文 LR 織文 内面：ナデ	Ⅲ	5-25
17	B-38	壺 or 壺	体部	M8	Ha	—	外面：無文 内面：ナデ 織紋孔	Ⅲ	5-26

第 19 図 弥生土器④

第三群 底部資料 平底・やや上げ底

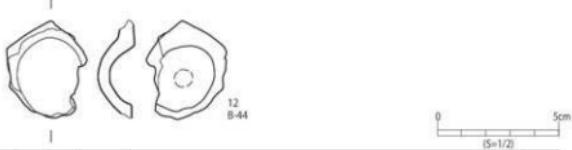


第三群 底部資料 外面中央が窪む強い上げ底のもの



図番号	部群 番号	器種	部位	出土地区 - 地層	出土層位	底径	調整・特徴		分類	写真 図版
							外側	内側		
1	B-58	骨 or 磨	体-底部	Q10	Ba	(7.5)	外側: 体部-横位 LR 織文、底部-平底、横位 LR 織文、内側: ナデ	II	S-27	
2	B-47	骨 or 磨	体-底部	I25	Ba	(4.5)	外側: 体部-横位 LR 織文、底部-平底	II	S-28	
3	B-69	骨 or 磨	体-底部	M6	Bc	-	外側: 体部-末端や折らむ、横位 LR 織文、底部-平底、ナデ 内側: ナデ	II	S-29	
4	B-59	骨 or 磨	体-底部	O6	Ba	(8.4)	外側: 体部-末端や折らむ、横位 LR 織文、底部-やや上げ底。木葉模 内側: ナデ	II	S-30	
5	B-20	骨 or 磨	体-底部	P12B6	限り方理土	(7.8)	外側: 末端や折り出す 体部-横位 LR 織文、底部-やや上げ底。木葉模 内側: ナデ	II	S-31	
6	B-46	骨 or 磨	体-底部	M6	Ba	-	外側: 末端や折り出す 体部-横位 LR 織文、底部-平底。木葉模 内側: ナデ	II	S-32	
7	B-73	骨 or 磨	体-底部	B24	Bd	-	外側: 末端や折り出す 体部-横位 LR 織文、底部-やや上口部。木葉模 内側: ナデ	II	S-33	
8	B-18	骨 or 磨	体-底部	SD40	堆積土	(6.7)	外側: 末端や折り出す 体部-横位 LR 織文、底部-やや上口部。内側: ナデ	II	S-34	
9	B-71	骨 or 磨	底-底部	M5	Bc	(10.6)	外側: 末端や折り出す 体部-横位 LR 織文、底部-やや上口部。内側: ナデ	II	S-35	
10	B-45	骨 or 磨	体-底部	M5	Ba	(4.2)	外側: 体部-無文、ナデ 底部-外底中央が強くV字に上げ底。内側: ナデ	II	G-1	
11	B-70	骨 or 磨	体-底部	L6	Bc	(3.8)	外側: 体部-無文、ナデ 底部-外底中央が窪む強い上げ底。内側: ナデ	II	G-2	

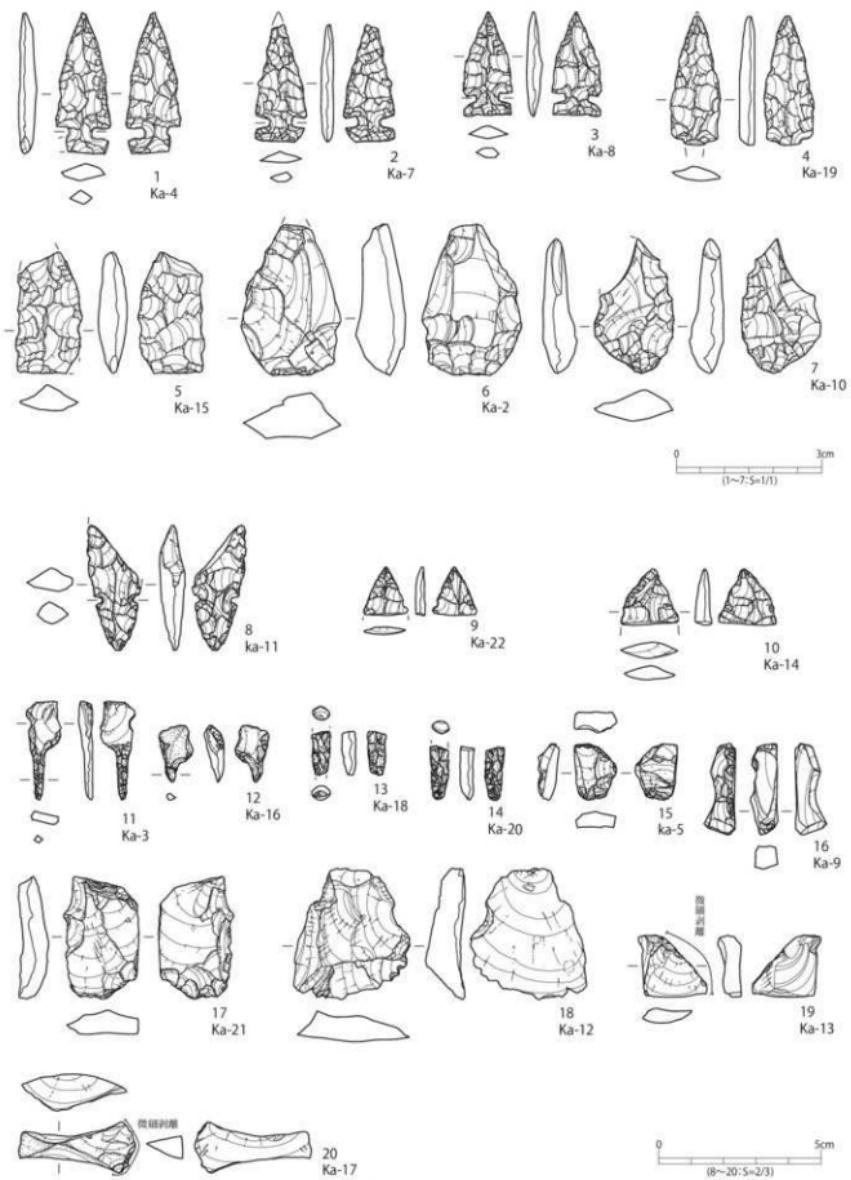
不明土製品



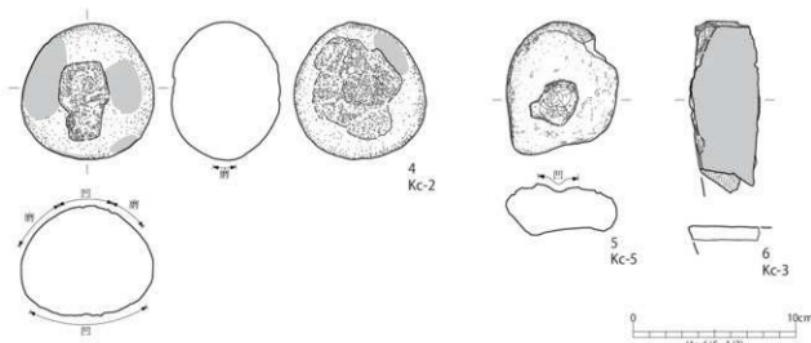
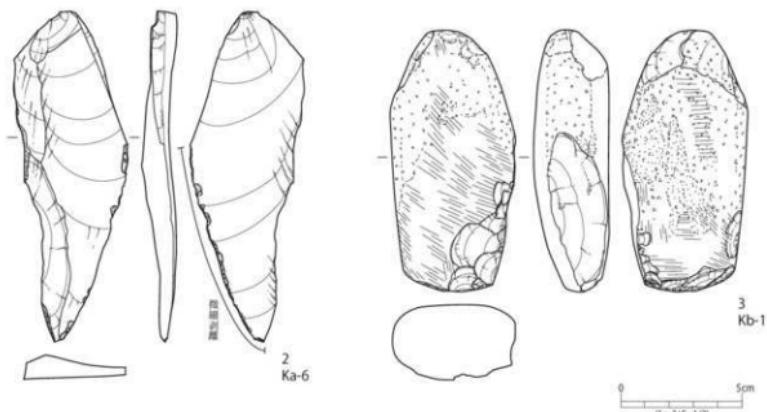
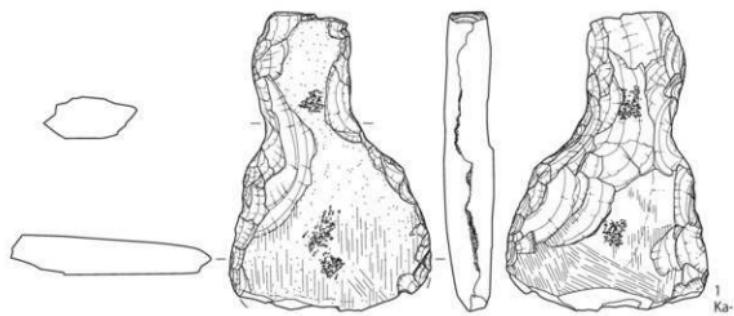
図番 番号	部群 番号	器種	部位	出土地区	出土層位	長さ	幅	厚さ	調整・特徴		写真 図版
									縁辺はすべて欠損 一部摩耗あり ドーム形に残れる 黄褐色土器の一例か?		
12	B-44	不明土製品	-	L5	Ba	(4.6)	(3.1)	0.5~0.6			G-3

第 20 図 弥生土器⑤

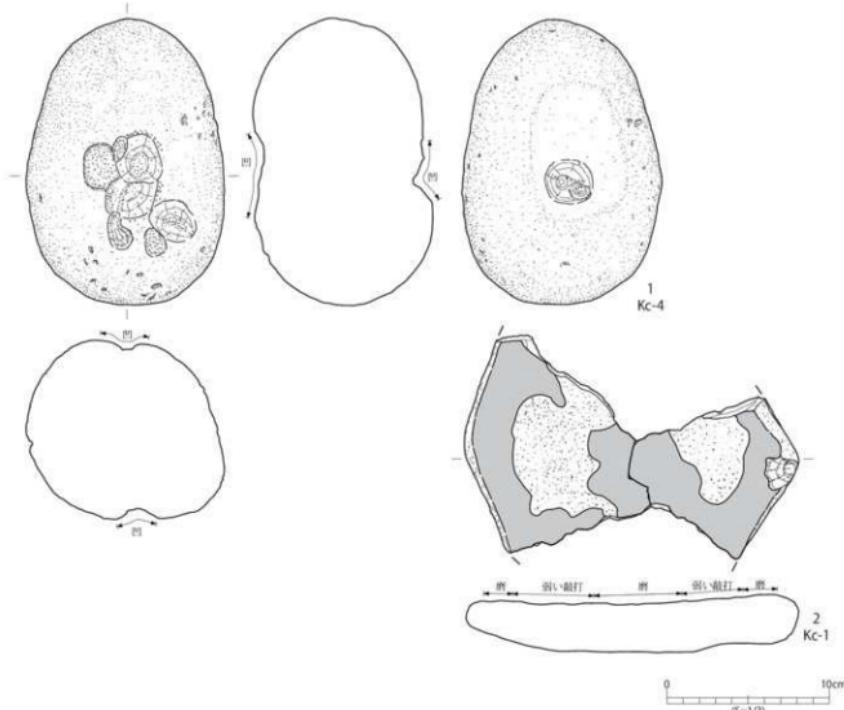
は、図示した右側の面に細部調整を加えた後、左側の面に加工を施して形成されている。第 21 図 9・10 は尖頭器の破損品である。両者とも先端部のみの残存である。表裏両面の全体に細部調整を加えている。石錐には、基部を有するもの（第 21 図 11・12）と、尖端部のみの破損品（第 21 図 13・14）がある。12 は、表面の大部分が自然面に覆われた剥片を素材としている。ビエス・エスキューは 2 点あり（第 21 図 15・16）、15 は、上端縁と下端縁が対になり 1 対の細部調整がみられる。16 は、長軸の両端にツブレ状の剝離が認められ、図示した左側の面の右側縁に細部調整がみられる。他に二次加工痕を有する剥片（第 21 図 17・18）と、微細剝離痕を有する剥片（第 21 図 19・20、第 22 図 2）がある。石鍬（第 22 図 1）は、表面に自然面が残る。刃部に研磨痕がみられ、刃先は欠損している。磨製石斧（第 22 図 3）の刃部には敲打痕が認められ、ほぼ平坦になっていることから、敲打具に転用されたものと考えられる。礫石器には、表裏両面に凹痕が残るもの（第 22 図 4、第 23 図 1）、片面にのみ



第21図 石器①



第22図 石器②



図中 番号	登録 登記 番号	種別・器種	出土地区 出土地点	出土 層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特 徴	写真 回数
21-1	Ka-4	アメリカ式石核	N6	IIa層	流紋岩	29.1	11.3	3.7	0.9	基部左側欠損	6-4
21-2	Ka-7	アメリカ式石核	N7	IIa層	碧玉	24.2	10.5	2.8	0.6	尖端部欠損	6-5
21-3	Ka-8	アメリカ式石核	N8	IIa層	碧玉	21.5	10.2	3.3	0.8	刃形	6-6
21-4	Ka-19	石核	SD24	堆積土	流紋岩	26.6	10.4	3.3	0.7	基部欠損	6-7
21-5	Ka-15	石核半製品	SD3	堆積土	流紋岩	25.6	13.7	6.0	1.8	尖端部右側欠損	6-8
21-6	Ka-2	石核半製品	D27	IIa層	流紋岩	46.4	30.6	15.4	18.0	先端部欠損	6-9
21-7	Ka-10	石核半製品	L15	IIb層	流紋岩	41.2	24.3	10.6	7.1	尖端部・左側欠損	6-10
21-8	Ka-11	尖頭核	O21	IIa層	流紋岩	57.5	24.8	11.7	10.2	尖端部欠損	6-11
21-9	Ka-22	尖頭核	SD26	堆積土	流紋岩	15.0	13.6	3.0	0.4	尖端部のみ残存	6-12
21-10	Ka-14	尖頭核	SD2	堆積土	流紋岩	17.4	17.8	5.3	1.2	尖端部のみ残存	6-13
21-11	Ka-3	石核	M5	IIa層	玉髓	45.4	16.0	6.7	2.8	断面を有する	6-14
21-12	Ka-16	石核	SD12	堆積土	流紋岩	36.2	15.7	9.1	2.6	断面を有する	6-15
21-13	Ka-18	石核	SD24	堆積土	流紋岩	20.2	8.7	6.6	1.4	尖端部のみ残存	6-16
21-14	Ka-20	石核	SD26	堆積土	流紋岩	24.6	8.64	6.5	1.5	尖端部のみ残存	6-17
21-15	Ka-5	ビズ・2.8-2	N6	IIa層	流紋岩	26.0	19.6	9.7	4.8	剥削を素材とする	6-18
21-16	Ka-9	ビズ・2.8-2	O6	IIa層	珪化貝類灰岩	41.9	12.7	14.4	7.7	剥削を素材とする	6-19
21-17	Ka-21	二次加工を有する剥片	SD26	堆積土	流紋岩	56.2	34.8	13.9	25.4	本地と他地に二次加工痕あり	6-20
21-18	Ka-12	二次加工を有する剥片	p283	堆積土	流紋岩質貝殻灰岩	60.3	53.6	18.1	40.2	本地と他地に二次加工痕あり	6-21
21-19	Ka-13	微細刮削痕を有する剥片	p288	堆積土	流紋岩	28.5	31.5	10.8	5.8	側面に微細削成あり	6-22
21-20	Ka-17	微細刮削痕を有する剥片	SD24	堆積土	流紋岩	23.4	53.8	17.3	12.4	側面に微細削成あり	6-23
22-2	Ka-6	微細刮削痕を有する剥片	N6	IIa層	碧玉	135.7	47.2	14.8	53.5	側面に微細削成あり 石材は相馬北上から原産地か?	6-25
22-1	Ka-1	石核	P19	IIa層上面	碧玉	122.6	82.9	20.9	232.5	表面は凹凸面 方向に強い線状剥離を有する研磨面あり 方先は次揚石と同様丸く削り取られた豪華な姿勢か?	6-24
22-3	Kb-1	崩壊石片	SK7	堆積土	綠泥石片岩	107.6	51.7	31.2	303.8	右側面を丸く削り取られた可能性がある	6-26
22-4	Kc-2	礫石	G23	IIa層	デイサイト露切岩	83.7	81.6	67.6	620	表面の中央部に深い凹凸があり その周囲には磨擦面がみられる	6-27
22-5	Kc-5	礫石	G28	IIa層	デイサイト	81.7	68.6	31.5	124.8	片面中央部が削り取られ一部欠損	6-28
22-6	Kc-3	礫石	B26	IIa層	軽板岩	105.3	43.8	9.0	66.8	表面と左側面・一部・側面磨面 異常に削薄している	6-29
23-1	Kc-4	輝石岩	J23	IIa層	デイサイト露切岩	175.8	121.6	109.5	2380	表面面の左側面に凹面あり 片面には研磨面認められ、その周囲には鋸打面がみられる	6-30
23-2	Kc-1	石田	L96	IIa層	デイサイト露切岩	205.7	138.1	34.9	1050	表面一面に研磨面と鋸打面が残る	6-31

第23図 石器③

凹痕が残るもの(第22図5)の2種類がある。4は表裏両面とも浅い凹痕で、凹痕の周囲には磨面が確認される。第23図1の凹痕は片面に複数認められ、その周囲には敲打痕がみられる。第22図5、第23図1の凹痕は深い。砥石(第22図6)は、表面と左側面の一部が使用により平坦になっている。裏面は剥落している。石皿は、片面に研磨面と弱い敲打面が残っている(第23図2)。

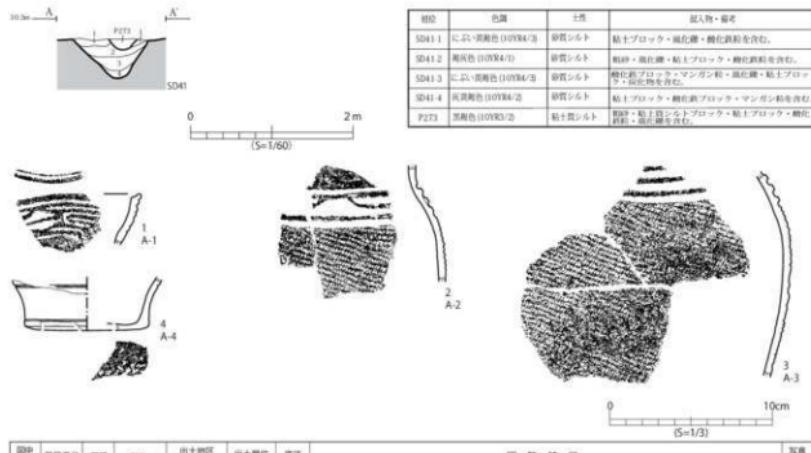
第4節 IV層上面遺構と出土遺物

IV層上面では溝跡1条、土坑2基、調査区北から中央南寄りに分布するピット70の、合計73遺構を検出した(第25図)。

1. 溝跡

SD41溝跡(第24・25図) 調査区北部で検出された溝である。P273・276～280・321・338・339に切られ、P351を切っている。検出長は11.20mで、さらに調査区外の東西へ続く。規模は上端幅100～156cm、下端幅15～25cm、深さ25～48cmである。底面はほぼ平坦であるが西から東へ向かってわずかに低下しており、比高差は約4cmである。方向はE-36°-Nである。断面形はやや開いたU字形を呈している。

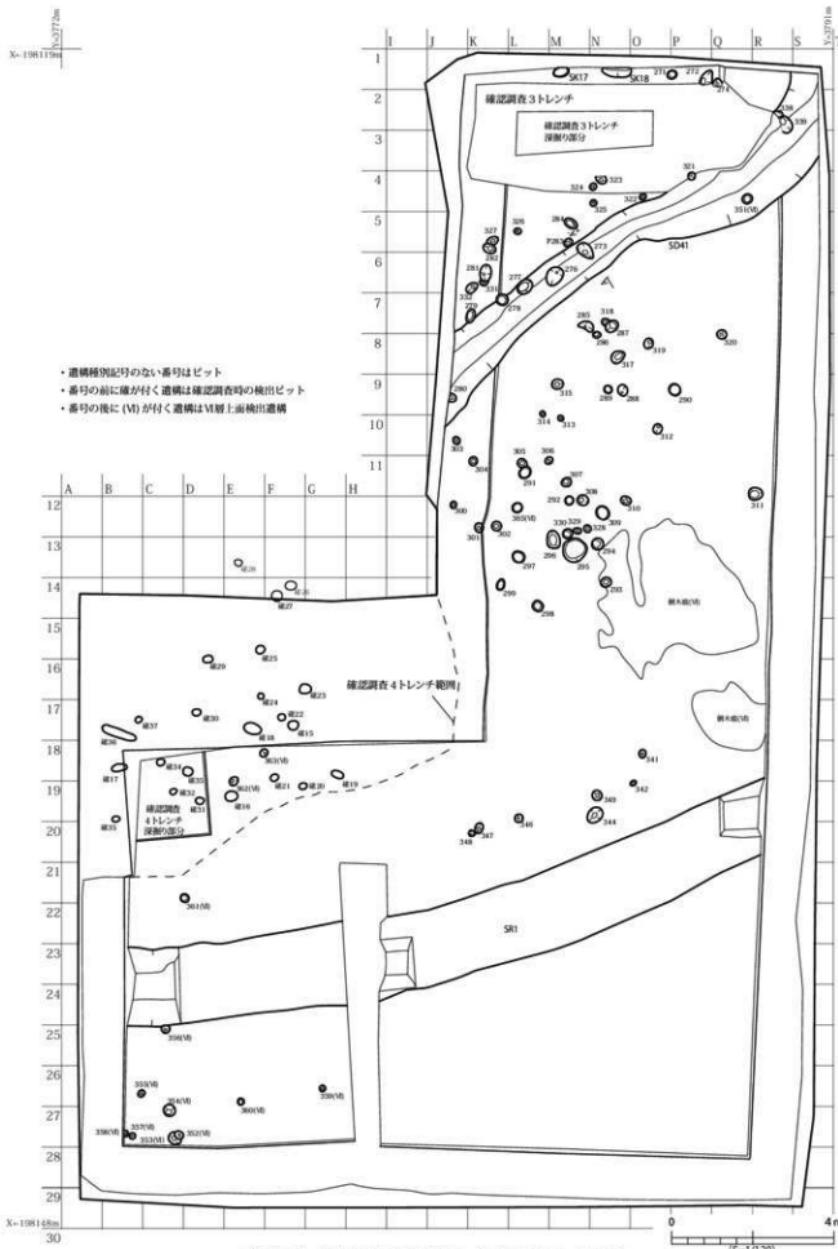
堆積土中から縄文土器片が19点出土している。このうちの4点(第24図1～4)を図示した。1は口縁部資料である。文様は沈線で变形工字文を施す。口唇部には沈線文をめぐらせており。2・3は体部資料であるが、同一個体と考えられるものである。文様は沈線と縄文の組み合わせもので、2は彫去によってπ字状文様を施している。3は、体部上半に沈線文が施される。ともに沈線間に赤色顔料が残存している。4は底部資料である。体部上半と下端に沈線文を施している。底部の外面には網代痕がみられる。これらの遺物は、縄文時代晩期の大洞A'式と考えられる。



第24図 SD41溝跡 土層断面図・出土遺物

2. 土坑

SK17土坑(第25・26図) 調査区北壁中央部で検出された土坑である。北側は調査区外に延びる。長軸50cm、



第25図 IV・VI層上面検出遺構 遺構配置図 (1/120)

短軸 31cm の楕円形で、深さは 11cm である。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。遺物は出土していない。

SK18 土坑（第 25・26 図） 調査区北壁中央部で検出された土坑である。北側は調査区外に延びる。平面形は長軸 75cm、短軸 24cm 以上 の楕円形と推定される。深さは 21cm である。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。遺物は出土していない。



第 26 図 SK17 + 18 土坑 平面図・土層断面図 (1/60)

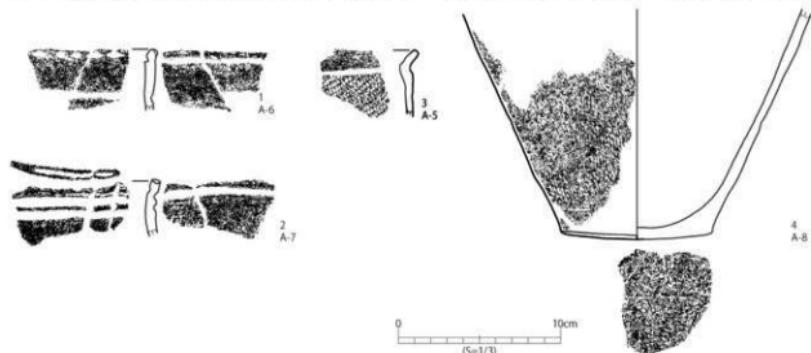
3. ピット

IV 層上面では 70 のピットが検出された（第 25 図）。ピットの平面形は円形・楕円形・不整円形・不整形で一定していない。規模は長軸 15 ~ 60cm、短軸 11 ~ 57cm、深さは 4 ~ 39cm である。堆積土は全て単層であり、基本層位の III c 層に類似している。柱根や柱痕跡は確認されなかった。このほかに確認調査時に 23 のピットを検出している。14 のピットから弥生土器片、剥片等が出土しており、P286 と P319 から出土した弥生土器片 2 点（第 20 図 5、第 19 図 1）P283 と P288 から出土し打製石器各 1 点（第 21 図 18・19）を国化した。弥生土器の詳細は第 3 節でまとめて報告している。

第 5 節 V 層上面遺構と出土遺物

1. 自然流路跡

S1 自然流路跡（第 14 図） 調査区南側で検出された。検出長 11.2m で、東・西側調査区外に延びる。規模は、上端幅 100 ~ 156cm、断面形は開いた V 字状で、深さは 48cm である。方向は N - 53° - E である。3か所にトレレンチを設定し堆積状況を確認したところ、基本層の III c ~ IV 層が堆積しており、層序通りの堆積が確認できたこ



田中 番号	登録番号	器種	部位	出土地区	出土量位	遺伝	調 整・特 徴	写真 回数
1	A-6	深鉢	口縁～体部	確認調査 3 トレチ	V 層	-	外面：口縁部 → 斜傾、ミガキ、山形状突起 口縁上半 → 斜傾、ミガキ 内面：斜傾、ミガキ	4-5
2	A-7	深鉢	口縁～体部	確認調査 3 トレチ	V 層	-	外面：口縁部 → 斜傾、ミガキ、山形状突起 口縁上半 → 斜傾、ミガキ 内面：口縫間に赤色顔料が附着、スヌ付着	4-6
3	A-5	深鉢	口縁～体部	確認調査 3 トレチ	V 層	-	外面：口縁部 → ナデ 口縁上半 → ミガキ 口縁下半 → ハル鉄文 内面：ナデ	4-7
4	A-8	深鉢	底～底部	確認調査 3 トレチ	V 層	(92)	外面：底部 → 横糸文 刃底部 → 木製縫 内面：ナデ、ミガキ	4-8

第 27 図 V 層出土遺物

とから自然流路の痕跡と判断した。

遺物は、流入土のⅢ c・d 層中から弥生土器片 3 点、剥片 2 点、礫 1 点が出土している。弥生土器片 1 点（第 16 図 12）を図化した。

2. V 層出土遺物

V 層からは縄文土器が 112 点出土している。いずれも小破片のため、図化できた資料は 4 点のみである（第 27 図 1～4）。1～3 は口縁部資料であり、文様は沈線文のもの（1・2）と、斜行縄文のもの（3）がある。1 は口唇部に押圧文を加えている。2 の口唇部には山形突起を作り、沈線文を施している。沈線内に赤色塗料が残存している。4 は底部資料である。器面の文様は撚糸文 R を施している。底部の外面には木葉痕がみられる。1～3 は縄文時代晩期の遺物と考えられるが、4 は時期不明である。後期か晩期のいずれかと考えられる。

第 6 章 VI 層上面遺構

ピット（第 25 図）

VI 層上面では計 14 のピットが検出された。平面形は円形・楕円形・不整円形・不整形で一定していない。規模は長軸 12～34cm、短軸 10～29cm、深さは 6～25cm である。堆積土は全て単層であり、基本層 V 層に類似している。柱根や柱痕跡は確認されなかった。遺物は出土していない。

第 6 章 まとめ

1. 遺構はⅢ a 層上面、Ⅲ b 層上面、IV 層上面、V 層上面、VI 層上面で検出された。検出遺構は、竪穴住居跡 2 軒、竪穴遺構 1 基、溝跡 35 条、土坑 18 基、自然流路跡 1 条、ピット 340 で、遺構総数は 397 である。
2. Ⅲ a 層上面では、竪穴住居跡 2 軒、竪穴遺構 1 基、溝跡 33 条、土坑 13 基、ピット 248 の、計 297 の遺構が検出された。SI3 竪穴住居跡はカマド内出土遺物により平安時代（表杉ノ入式期）の遺構と考えられる。SI2 竪穴住居跡では時期を特定できる遺物は出土していないが、東側の辺が SI3 竪穴住居跡の東側の辺とほぼ同一線上に並び、カマドの敷設位置も同じく北辺であることから、SI3 竪穴住居跡と同時期の可能性が考えられる。SI1 竪穴遺構は、時期を含め詳細は不明だが、竪穴住居跡の一部と推定される。SD40 溝跡は古墳時代の遺構の可能性がある。SK13 土坑は古墳時代中期（南小泉式期）、SK19 土坑は平安時代と考えられる。
3. Ⅲ b 層上面で検出された SK22 土坑は、弥生時代後期（天王山式）の時期に属する遺構と考えられる。
4. 基本層 III 層は弥生時代後期（天王山式）の遺物包含層であり、V 層は縄文時代晩期の遺物包含層である。
5. 弥生土器はⅢ 層の他、各層で検出された遺構の堆積土から出土しており、天王山式期の資料が主体を占め、少量の十三塚式期の土器が混在する（第 7 表）。
6. 縄文土器は V 層および SD41 溝跡の堆積土から出土しており、時期の分かるものは晩期大洞 A' 式期に位置づけられる。
7. 縄文時代の遺物包含層（V 層）からは石器が出土していないことから、今回の調査で出土した石器は、すべて弥生時代のものと考えられる（第 8 表）。石器に用いられている石材で多用されているものは流紋岩である（第 9 表）。他に碧玉、珪化凝灰岩がある程度用いられているが、圧倒的に流紋岩が多い。

<引用・参考文献>

氏家和典 1957 「東北土器の型式分類とその編年」『歴史』第 14 叙 東北史学会

石器技術研究会 2004 『石器づくりの実験考古学』学生社

仙台市教育委員会・宮城県道路公社 1984 『山口遺跡Ⅱ—仙台市体育館建設予定地』仙台市文化財発掘調査報告書第 61 集

仙台市教育委員会・みやぎ生活協同組合 1988 『下ノ内浦遺跡—みやぎ生活協同組合店舗建設に伴う発掘調査報告書—』仙台市文化財調査報告書第 115 集

- 仙台市教育委員会 1993「下ノ内浦遺跡－第4次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第173集
- 仙台市教育委員会 1995「下ノ内浦遺跡－第5次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第202集
- 仙台市教育委員会 1996「下ノ内浦・山口遺跡－仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書V」仙台市文化財調査報告書第207集
- 仙台市教育委員会 1997「下ノ内浦遺跡第6次発掘調査」「小鶴城跡ほか発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第261集
- 仙台市教育委員会 2000「高田B遺跡」仙台市文化財調査報告書第242集
- 仙台市史編さん委員会 1995『仙台市史特別編2考古資料』仙台市
- 東海埋蔵文化財研究会 1991「東海系土器の移動から見た東日本の後期弥生土器」第3分冊 関東・中央高地篇
- 日本考古学協会 2001「亀ヶ岡文化－集落とその実態－晩期遺構集成II」
- 弥生時代研究会 1990「天王山式期をめぐって」の検討会 記録集

第1表 IIIa層上面接出遺構 SI1 積穴道構、SI2・3 積穴住居跡 計測表

遺構番号	グリッド	平地面形	主軸方位	長辺(m)×短辺(m)×深さ(cm)	カマド	床面	周溝	柱穴	掘り方	時期
SI1	N~R-27~29	(方形)	N-25°-W	3.11以上×1.15以上×27	なし	平坦	なし	なし	不明	
SI2	L~O-19~22	方形	N-3°-E	3.02×2.52×10	あり	平坦	あり	4基	あり(平安)	
SI3	K~O-10~15	方形	N-5°-E	3.61×3.30×14	あり	平坦	あり	6基	あり(平安)	

手前形の()内は現存部分からの測定 時期の()内は記述

第2表 IIIa層上面接出遺構 SD1~40 測溝 計測表

遺構番号	グリッド	方向	長さ(m)×上端幅(cm)×深さ(cm)	断面形	出土遺物	時期
SD 1	E~G-22~28	N-16°-W	6.03以上×0.35×12	逆台形	弥生土器6点、珪化木1点	近世以前
SD 2	G~R-22~29	W-27°-N	13.32以上×0.64×16	開いたU字状	弥生土器30点、調整竿子土器3点、実際1点(21個)、石器1点	近世以前
SD 3	J~S-14~16	E-9°-N	9.50以上×0.26×32	逆台形	弥生土器5点、石器1点、石器點線1点(21個)、打削石器1点、石片2点、鐵1点	近世以前
SD 4	S-3~4	N-34°-W	0.68×0.27×11	逆台形		近世以前
SD 5	R~S-4~5	N-31°-W	1.07×0.26×6	逆台形		近世以前
SD 6	R~S-4~6	N-35°-W	1.67×0.33×9	逆台形	弥生土器1点	近世以前
SD 7	欠番					
SD 8	Q-5~6	N-45°-W	1.26×0.26×8	逆台形		近世以前
SD 9	P~R-5~7	N-40°-W	2.47×0.25×10	逆台形	弥生土器1点	近世以前
SD10	O-5~6	N-35°-W	0.84×0.18×5	逆台形		近世以前
SD11	N-0~5~6	N-31°-W	1.14×0.17×5	逆台形	弥生土器3点	近世以前
SD12	N-0~6~7	N-22°-W	1.60×0.21×7	逆台形	弥生土器5点、石器1点(21個)2点	近世以前
SD13	M-6	N-18°-W	1.00×0.27×9	逆台形	弥生土器2点	近世以前
SD14	L~M-6	N-15°-W	0.81×0.32×8	逆台形	弥生土器7点	近世以前
SD15	欠番					
SD16	K~L-7~8	E-23°-N	1.52×0.42×9	逆台形	弥生土器3点	近世以前
SD17	J~K-8	E-26°-N	0.56以上×0.19×8	逆台形		近世以前
SD18	J~K-7~9	N-35°-W	1.45×0.15×6	逆台形		近世以前
SD19	R~S-7~9	N-27°-W	1.75以上×0.40×10	鐘狀跡	弥生土器1点	近世以前
SD20	S-7~8	N-21°-W	0.58以上×0.26以上×9	逆台形		近世以前
SD21	欠番					
SD22	B~C-22~25	N-29°-W	2.68×0.30×14	逆台形	弥生土器2点、調整竿子土器2点	近世以前
SD23	B~C-21~23	N-28°-W	2.03×0.42×12	逆台形	弥生土器3点、非クロコ土器4点、調整竿子土器2点	近世以前
SD24	J~S-3~7	E-15°-N	9.35以上×0.47×8	逆台形	弥生土器1点、調整竿子土器4点(21個)4点、石器1点(21個)1点、打削石器2点(21個)2点、鉄1点(21個)1点	近世以前
SD25	J~S-6~7	E-7°-N	9.00以上×0.21~1.03×2~9	逆台形	弥生土器1点、調整竿子土器1点、打削石器1点	近世以前
SD26	J~S-6~10	E-18°-N	9.62以上×0.50×8	逆台形	弥生土器4点、非クロコ土器3点、調整竿子土器1点(21個)2点、石器1点(21個)1点、打削石器1点(21個)1点、鉄1点(21個)1点	近世以前
SD27	M-7~8	N-33°-W	0.95×0.18×7	逆台形	弥生土器1点	近世以前
SD28	R~S-10	E-34°-N	1.29以上×0.22×8	逆台形	弥生土器3点	近世以前
SD29	O~S-8~12	N-16°-W	4.81以上×0.27×4	逆台形		近世以前
SD30	H~I-24	W-23°-N	0.65以上×0.13×5	逆台形		近世以前
SD31	欠番					
SD32	欠番					
SD33	K~L-26	W-18°-N	1.14×0.17×5	逆台形		近世以前
SD34	I~J-25	E-17°-N	1.43×0.35×8	逆台形		近世以前
SD35	C~D-28~29	E-19°-N	1.00×0.31×11	逆台形		近世以前
SD36	欠番					
SD37	欠番					
SD38	K~L-5~6	E-24°-N	1.50×0.23×10	逆台形	弥生土器2点	近世以前
SD39	A~C-27~29	W-30°-N	2.31以上×0.49×20	逆台形	弥生土器3点	近世以前
SD40	A~S-25~28	E-8°-N	1.781以上×0.63×25	開いたU字状	弥生土器17点、打削石器2点、鉄1点3点	古墳以前

第3表 IIIa層上面検出遺構 SK1~15・19~21土坑 計測表

平衡形の()内は現存部分からの推定、規格の()内は現存値、一は計測不能

第4表 IIIb層上面檢出遺構 SK16・22土坑 計測表

遺構番号	グリッド	平面形	新面形	長軸方位	土壌環境	遺物	測量記述	基準	面	時代・時期	遺構番号	グリッド	平面形	新面形	長軸方位	土壌環境	遺物	測量記述	基準	面	時代・時期								
SK16	A-8-28-29	(長方形)	逆円形	斜基部	約80cm × 約70cm	X 2.3 m	平田	井生	S	SK22	B-8-28-29	(長方形)	逆円形	斜基部	約110cm × 約100cm	1.9m	平田	井生	S	SK24	B-8-28-29	(長方形)	逆円形	斜基部	約110cm × 約100cm	1.9m	平田	井生	S

機種番号	グリッド	方	向	全長(四)	×
------	------	---	---	-------	---

第6表 IV層上面突出部構造 SK17+19.8計測表

2010-2011 2011-2012 2012-2013 2013-2014 2014-2015 2015-2016 2016-2017 2017-2018 2018-2019

SK17 M-1 橘円形逆台形耐候

平面形の（ ）内は現存部分からの推定、規模の（ ）内は現存値、一は計測不能

自題 雷山隱士詩

台	日	1	17	2	6	13	26
—	—	1984	1982	1980	1985	1985	1981

第8表 層位・遺構別出土石器数量表

| 遺構 | 山形点 | 層位 | 遺構名 | 遺構番号 | V番 | M1 | M2 | M3 | M4 | M5 | M6 | M7 | M8 | M9 | M10 | M11 | M12 | M13 | M14 | M15 | M16 | M17 | M18 | M19 | M20 | M21 | M22 | M23 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 | P6 | P7 | P8 | P9 | P10 | P11 | P12 | P13 | P14 | P15 | P16 | P17 | P18 | P19 | P20 | P21 | P22 | P23 | P24 | P25 | P26 | P27 | P28 | P29 | P30 | P31 | P32 | P33 | P34 | P35 | P36 | P37 | P38 | P39 | P40 | P41 | P42 | P43 | P44 | P45 | P46 | P47 | P48 | P49 | P50 | P51 | P52 | P53 | P54 | P55 | P56 | P57 | P58 | P59 | P60 | P61 | P62 | P63 | P64 | P65 | P66 | P67 | P68 | P69 | P70 | P71 | P72 | P73 | P74 | P75 | P76 | P77 | P78 | P79 | P80 | P81 | P82 | P83 | P84 | P85 | P86 | P87 | P88 | P89 | P90 | P91 | P92 | P93 | P94 | P95 | P96 | P97 | P98 | P99 | P100 | P101 | P102 | P103 | P104 | P105 | P106 | P107 | P108 | P109 | P110 | P111 | P112 | P113 | P114 | P115 | P116 | P117 | P118 | P119 | P120 | P121 | P122 | P123 | P124 | P125 | P126 | P127 | P128 | P129 | P130 | P131 | P132 | P133 | P134 | P135 | P136 | P137 | P138 | P139 | P140 | P141 | P142 | P143 | P144 | P145 | P146 | P147 | P148 | P149 | P150 | P151 | P152 | P153 | P154 | P155 | P156 | P157 | P158 | P159 | P160 | P161 | P162 | P163 | P164 | P165 | P166 | P167 | P168 | P169 | P170 | P171 | P172 | P173 | P174 | P175 | P176 | P177 | P178 | P179 | P180 | P181 | P182 | P183 | P184 | P185 | P186 | P187 | P188 | P189 | P190 | P191 | P192 | P193 | P194 | P195 | P196 | P197 | P198 | P199 | P200 | P201 | P202 | P203 | P204 | P205 | P206 | P207 | P208 | P209 | P210 | P211 | P212 | P213 | P214 | P215 | P216 | P217 | P218 | P219 | P220 | P221 | P222 | P223 | P224 | P225 | P226 | P227 | P228 | P229 | P230 | P231 | P232 | P233 | P234 | P235 | P236 | P237 | P238 | P239 | P240 | P241 | P242 | P243 | P244 | P245 | P246 | P247 | P248 | P249 | P250 | P251 | P252 | P253 | P254 | P255 | P256 | P257 | P258 | P259 | P260 | P261 | P262 | P263 | P264 | P265 | P266 | P267 | P268 | P269 | P270 | P271 | P272 | P273 | P274 | P275 | P276 | P277 | P278 | P279 | P280 | P281 | P282 | P283 | P284 | P285 | P286 | P287 | P288 | P289 | P290 | P291 | P292 | P293 | P294 | P295 | P296 | P297 | P298 | P299 | P300 | P301 | P302 | P303 | P304 | P305 | P306 | P307 | P308 | P309 | P310 | P311 | P312 | P313 | P314 | P315 | P316 | P317 | P318 | P319 | P320 | P321 | P322 | P323 | P324 | P325 | P326 | P327 | P328 | P329 | P330 | P331 | P332 | P333 | P334 | P335 | P336 | P337 | P338 | P339 | P340 | P341 | P342 | P343 | P344 | P345 | P346 | P347 | P348 | P349 | P350 | P351 | P352 | P353 | P354 | P355 | P356 | P357 | P358 | P359 | P360 | P361 | P362 | P363 | P364 | P365 | P366 | P367 | P368 | P369 | P370 | P371 | P372 | P373 | P374 | P375 | P376 | P377 | P378 | P379 | P380 | P381 | P382 | P383 | P384 | P385 | P386 | P387 | P388 | P389 | P390 | P391 | P392 | P393 | P394 | P395 | P396 | P397 | P398 | P399 | P400 | P401 | P402 | P403 | P404 | P405 | P406 | P407 | P408 | P409 | P410 | P411 | P412 | P413 | P414 | P415 | P416 | P417 | P418 | P419 | P420 | P421 | P422 | P423 | P424 | P425 | P426 | P427 | P428 | P429 | P430 | P431 | P432 | P433 | P434 | P435 | P436 | P437 | P438 | P439 | P440 | P441 | P442 | P443 | P444 | P445 | P446 | P447 | P448 | P449 | P450 | P451 | P452 | P453 | P454 | P455 | P456 | P457 | P458 | P459 | P460 | P461 | P462 | P463 | P464 | P465 | P466 | P467 | P468 | P469 | P470 | P471 | P472 | P473 | P474 | P475 | P476 | P477 | P478 | P479 | P480 | P481 | P482 | P483 | P484 | P485 | P486 | P487 | P488 | P489 | P490 | P491 | P492 | P493 | P494 | P495 | P496 | P497 | P498 | P499 | P500 | P501 | P502 | P503 | P504 | P505 | P506 | P507 | P508 | P509 | P510 | P511 | P512 | P513 | P514 | P515 | P516 | P517 | P518 | P519 | P520 | P521 | P522 | P523 | P524 | P525 | P526 | P527 | P528 | P529 | P530 | P531 | P532 | P533 | P534 | P535 | P536 | P537 | P538 | P539 | P540 | P541 | P542 | P543 | P544 | P545 | P546 | P547 | P548 | P549 | P550 | P551 | P552 | P553 | P554 | P555 | P556 | P557 | P558 | P559 | P560 | P561 | P562 | P563 | P564 | P565 | P566 | P567 | P568 | P569 | P570 | P571 | P572 | P573 | P574 | P575 | P576 | P577 | P578 | P579 | P580 | P581 | P582 | P583 | P584 | P585 | P586 | P587 | P588 | P589 | P590 | P591 | P592 | P593 | P594 | P595 | P596 | P597 | P598 | P599 | P600 | P601 | P602 | P603 | P604 | P605 | P606 | P607 | P608 | P609 | P610 | P611 | P612 | P613 | P614 | P615 | P616 | P617 | P618 | P619 | P620 | P621 | P622 | P623 | P624 | P625 | P626 | P627 | P628 | P629 | P630 | P631 | P632 | P633 | P634 | P635 | P636 | P637 | P638 | P639 | P640 | P641 | P642 | P643 | P644 | P645 | P646 | P647 | P648 | P649 | P650 | P651 | P652 | P653 | P654 | P655 | P656 | P657 | P658 | P659 | P660 | P661 | P662 | P663 | P664 | P665 | P666 | P667 | P668 | P669 | P670 | P671 | P672 | P673 | P674 | P675 | P676 | P677 | P678 | P679 | P680 | P681 | P682 | P683 | P684 | P685 | P686 | P687 | P688 | P689 | P690 | P691 | P692 | P693 | P694 | P695 | P696 | P697 | P698 | P699 | P700 | P701 | P702 | P703 | P704 | P705 | P706 | P707 | P708 | P709 | P710 | P711 | P712 | P713 | P714 | P715 | P716 | P717 | P718 | P719 | P720 | P721 | P722 | P723 | P724 | P725 | P726 | P727 | P728 | P729 | P730 | P731 | P732 | P733 | P734 | P735 | P736 | P737 | P738 | P739 | P740 | P741 | P742 | P743 | P744 | P745 | P746 | P747 | P748 | P749 | P750 | P751 | P752 | P753 | P754 | P755 | P756 | P757 | P758 | P759 | P760 | P761 | P762 | P763 | P764 | P765 | P766 | P767 | P768 | P769 | P770 | P771 | P772 | P773 | P774 | P775 | P776 | P777 | P778 | P779 | P780 | P781 | P782 | P783 | P784 | P785 | P786 | P787 | P788 | P789 | P790 | P791 | P792 | P793 | P794 | P795 | P796 | P797 | P798 | P799 | P800 | P801 | P802 | P803 | P804 | P805 | P806 | P807 | P808 | P809 | P810 | P811 | P812 | P813 | P814 | P815 | P816 | P817 | P818 | P819 | P820 | P821 | P822 | P823 | P824 | P825 | P826 | P827 | P828 | P829 | P830 | P831 | P832 | P833 | P834 | P835 | P836 | P837 | P838 | P839 | P840 | P841 | P842 | P843 | P844 | P845 | P846 | P847 | P848 | P849 | P850 | P851 | P852 | P853 | P854 | P855 | P856 | P857 | P858 | P859 | P860 | P861 | P862 | P863 | P864 | P865 | P866 | P867 | P868 | P869 | P870 | P871 | P872 | P873 | P874 | P875 | P876 | P877 | P878 | P879 | P880 | P881 | P882 | P883 | P884 | P885 | P886 | P887 | P888 | P889 | P890 | P891 | P892 | P893 | P894 | P895 | P896 | P897 | P898 | P899 | P900 | P901 | P902 | P903 | P904 | P905 | P906 | P907 | P908 | P909 | P910 | P911 | P912 | P913 | P914 | P915 | P916 | P917 | P918 | P919 | P920 | P921 | P922 | P923 | P924 | P925 | P926 | P927 | P928 | P929 | P930 | P931 | P932 | P933 | P934 | P935 | P936 | P937 | P938 | P939 | P940 | P941 | P942 | P943 | P944 | P945 | P946 | P947 | P948 | P949 | P950 | P951 | P952 | P953 | P954 | P955 | P956 | P957 | P958 | P959 | P960 | P961 | P962 | P963 | P964 | P965 | P966 | P967 | P968 | P969 | P970 | P971 | P972 | P973 | P974 | P975 | P976 | P977 | P978 | P979 | P980 | P981 | P982 | P983 | P984 | P985 | P986 | P987 | P988 | P989 | P990 | P991 | P992 | P993 | P994 | P995 | P996 | P997 | P998 | P999 | P1000 | P1001 | P1002 | P1003 | P1004 | P1005 | P1006 | P1007 | P1008 |
<th rowspan="
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |

写 真 図 版



S11 穫穴遺構 完掘全景（北西から）



S12 穫穴住居跡 カマド 棲出状況（南から）



S12 穫穴住居跡 完掘全景（南から）



S12 穫穴住居跡 掘り方 断面（南から）



S13 穫穴住居跡 カマド（南から）



S13 穫穴住居跡 完掘全景（南から）



SD1 溝跡 完掘全景（南から）



SD2 溝跡 完掘全景（南東から）

写真図版 1



SD 3溝跡 完掘全景 (西から)



III a 上面北側 溝跡群 完掘状況 (南から)



SD10・11溝跡 断面 (南から)



SD20溝跡 完掘全景 (南東から)



SD40溝跡 完掘全景 (西から)



SD41溝跡 完掘全景 (西から)



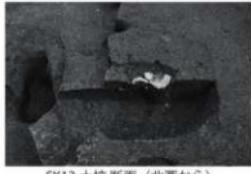
SK1・2・5・6土坑完掘全景 (南から)



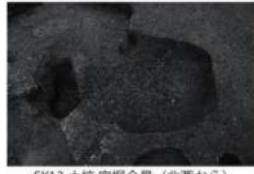
SK3・4土坑完掘全景 (南から)



SK11土坑完掘全景 (北西から)



SK13土坑断面 (北西から)



SK13土坑完掘全景 (北西から)



SK17土坑完掘全景 (南から)



SK18土坑完掘全景 (南から)



SK22土坑遺物出土状況 (北から)



SK19土坑棟出状況 (東から)

写真図版 2



SK16・22 土坑 完掘全景 (北から)



IIIa 層アメリカ式石造 (Ka-8)
出土状況 (南から)



IIIa 層上面北側 完掘状況 (西から)



IIIa 層上面南側 完掘状況 (北西から)



IIIb 層上面南側 完掘状況 (北西から)



IIIb 層上面北側 完掘状況 (南西から)



IIIc 層上面北側 完掘状況 (南から)



IIIc 層上面南側 完掘状況 (北西から)



IIId 層上面北側 完掘状況 (南から)



IV 层上面北側 完掘状況 (南から)



IV 层上面南西側 完掘状況 (南から)



IV 层上面南東側 完掘状況 (東から)

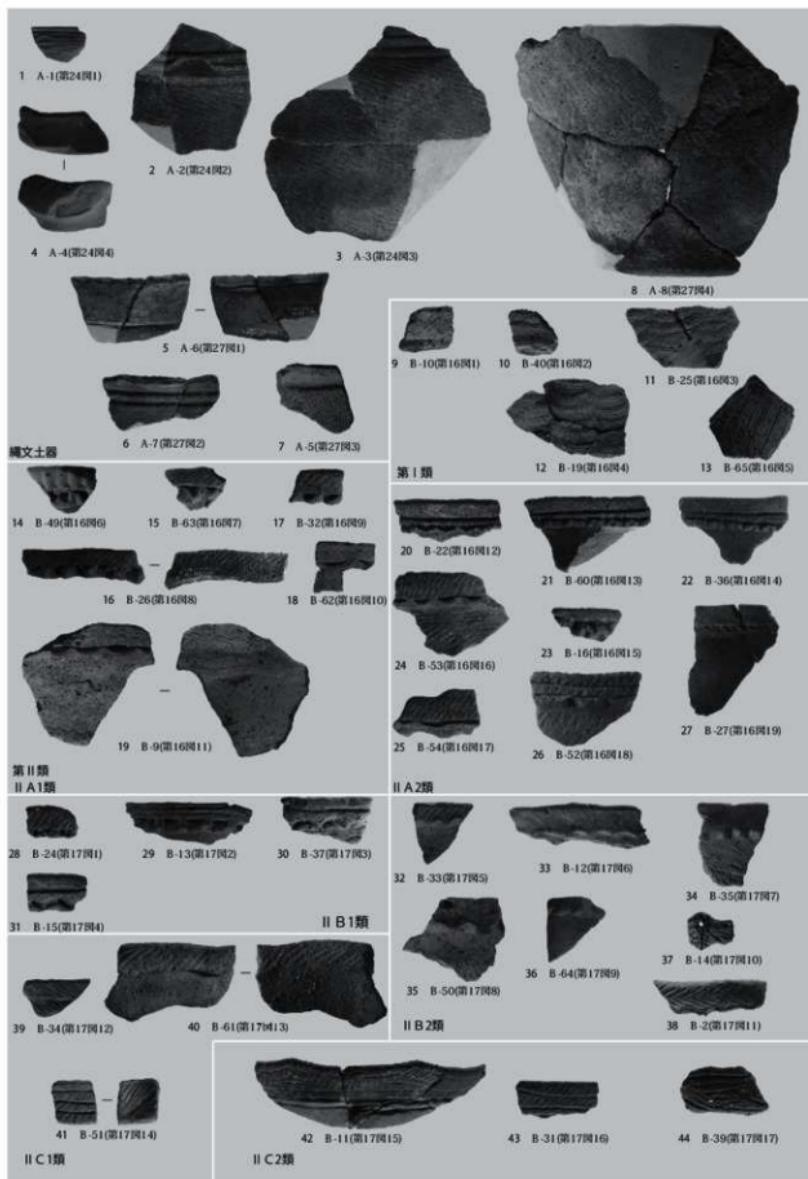


V 层上面北側 完掘状況 (北から)

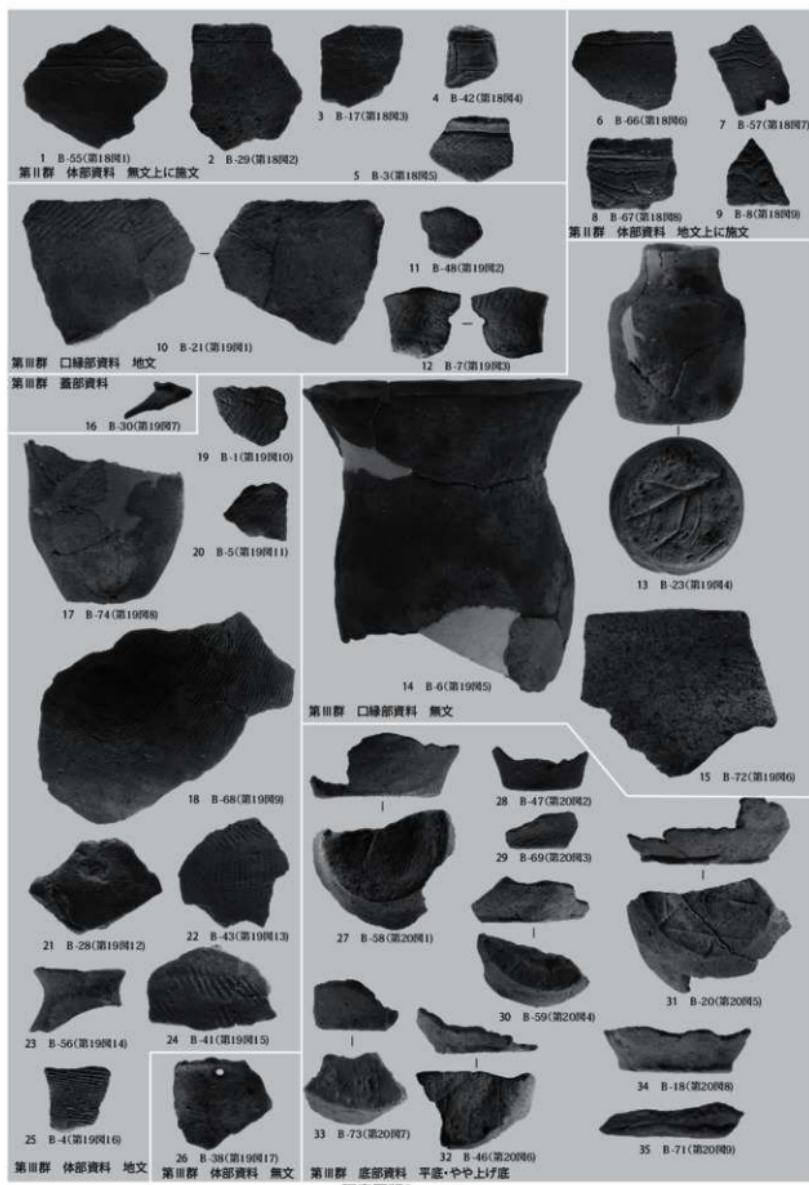


VI 层上面 完掘全景 (南から)

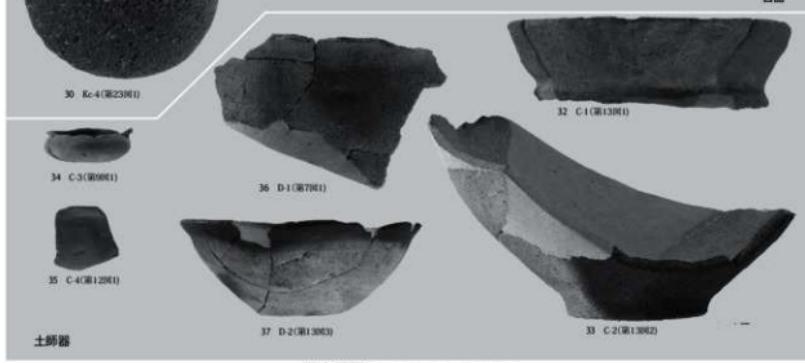
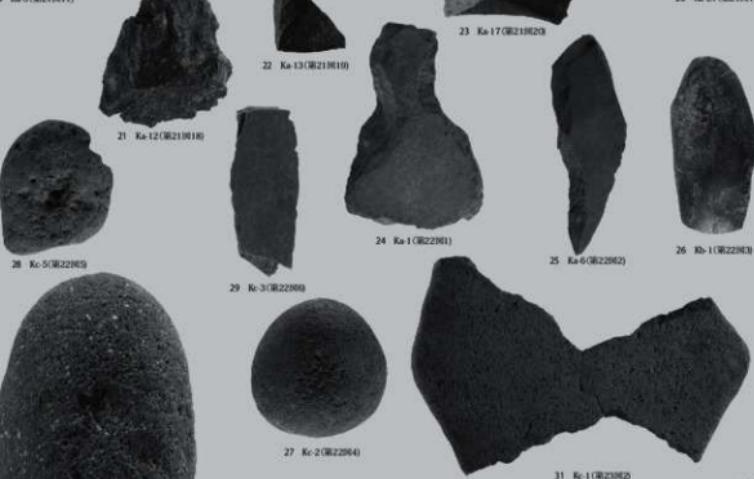
写真図版 3



写真図版 4(1 ~ 45 : 約 1/3)



写真図版5(1~35:約1/3)



写真図版6(1~20:約1/2, 21~33:約1/3)

報告書抄録

ふりがな	しものうちうらいせき						
書名	下ノ内浦遺跡						
副書名	第7次発掘調査報告書						
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第367集						
編著者名	荒井格・熊谷敏哉・三澤壯太・百瀬貴子						
編集機関	仙台市教育委員会						
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区二日町1番1号 電話022-214-8894						
発行年月日	2010年3月26日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
しものうちうらいせき 下ノ内浦遺跡	仙台市太白区長町南 西丁目29-3・6・7	41009 01368	38° 42' 52' 53'	140° 12' 52' 35'	2009.08.09 - 2009.03.30	399 m ²	共同住宅建築工事に 伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
しものうちうらいせき 下ノ内浦遺跡	包含層 集落跡	縄文 弥生 古墳 平安	豎穴住居跡 溝跡 土坑 ピット	縄文上器 弥生上器 土師器 石器・石製品	縄文時代と弥生時代の遺物包含層、 弥生時代及びそれ以降の土坑、平 安時代の豎穴住居跡、近世以降の 多数の溝・ピットを発見した。		
要約	下ノ内浦遺跡は仙台市太白区長町南に所在する。遺跡は名取川と広瀬川にはさまれた「郡山低地」と呼ばれる地域にあたり、名取川と荒川の洪水堆積物によって形成された自然堤防上に立地する。調査地点は遺跡範囲の中央北寄りに位置する。発掘調査の結果、豎穴住居跡2軒、豎穴道構1基、溝跡35条、土坑18基、自然演露路1条、ピット340が発見された。また、縄文時代と弥生時代の遺物包含層も確認された。出土遺物は縄文上器、弥生上器、土師器、石器である。豎穴住居跡の1軒は平安時代で、もう1軒は同時期の可能性が考えられる。弥生時代の土坑は1基確認されている。遺物包含層はそれぞれ縄文時代後期と弥生時代後期のものである。						

仙台市文化財調査報告書第367集

下ノ内浦遺跡

第7次発掘調査報告書

2010年3月

発行 仙台市教育委員会

〒980-8671 仙台市青葉区二日町1番1号

文化財課 022(214)8894

印刷 今野印刷株式会社

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-10

022(288)6123

